

令和6年度文部科学省委託事業

「学力調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究」

（全国学力・学習状況調査のCBT化に向けた試行・検証）

C.CBT 導入後の質問調査の設計・実施に関する試行・検証

成果報告書

令和7年3月

UCHIDA

株式会社内田洋行
教育総合研究所

目次

1. 本事業の背景と目的	2
1.1. 背景	2
1.2. 目的	3
1.3. 本事業の体制・実施スケジュール	4
2. 児童生徒質問調査への分冊方式導入の可能性	6
2.1. 構成内マトリックスサンプリング法	6
2.2. ランダム方式におけるセレクション設定とシャッフル設定	6
2.3. 児童生徒質問調査における活用の論点	8
2.4. 本事業の検証内容と使用する調査データ	10
2.4.1. 児童生徒質問調査設計	10
2.4.2. 実証校アンケート調査設計	12
3. 検証	13
3.1. セレクション設定とシャッフル設定による出題頻度	13
3.2. シャッフル設定による順序効果	15
3.3. 欠測値を含んだデータにおける心理尺度の再現性	18
3.4. 結果返却に対する学校現場の反応	19
4. 結論・今後の展望	22
4.1. 検証結果のまとめ	22
4.2. 今後の展望	23
4.2.1. 質問目的の明確化と結果返却について	23
4.2.2. 学力格差の観点から追加が望まれる質問項目	24
4.2.3. 質問調査の構成・データの管理上の工夫、分析上の留意点	25
参考文献	28
付録	29
資料1. 児童生徒質問調査集計結果	29
資料2. 児童生徒質問調査回答画面(全項目)	34
資料3. 実証校アンケート調査集計結果	48

1. 本事業の背景と目的

1.1. 背景

● 全国学力・学習状況調査の段階的な CBT(Computer-based Testing)化

全国学力・学習状況調査は、GIGA スクール構想による 1 人 1 台端末の普及、教育のデジタル・トランスメーションに関する取組の進展に伴い、CBT(Computer-based Testing、以下 CBT)化に向けた検討が行われてきた。例えば、令和 3 年 7 月「全国的な学力調査に関する専門家会議」の下に設置された「全国的な学力調査の CBT 化検討ワーキンググループ」では、全国学力・学習状況調査の CBT 化についての基本的な方向性が示された。その後、令和 6 年 9 月には、「令和 7 年度以降の全国学力・学習状況調査（悉皆調査）CBT での実施について（令和 6 年 9 月改定）」の中で、令和 7 年度以降の悉皆調査の CBT 化に向けた工程表が整理された（文部科学省，2024a）。

文部科学省（2024a）は、全国学力・学習状況調査の着実な CBT 移行のためには、段階的にその規模・内容を拡充する形で進めていく必要があるとしたうえで、**図 1** の通り計画を策定している。本報告書作成時点（令和 7 年 3 月）では、令和 7 年度から一部教科から段階的に CBT 化を進め、令和 9 年度より、小中学校ともに教科調査・児童生徒質問調査全て CBT で実施予定としている。なお、実施については公的 CBT プラットフォームである「文部科学省 CBT システム（MEXCBT：メクビット）」が使用される。

このように全国学力・学習状況調査は、全面的に CBT に切り替わることが予定されており、今後 CBT の活用を前提とした調査設計のあるべき姿を具体的に検討していく必要がある。

		2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	2025年度 (令和7年度)	2026年度 (令和8年度)	2027年度 (令和9年度)	2028年度 (令和10年度)
教科調査 (悉皆)	小学校	国語	PBT	PBT	PBT	PBT	PBT	サンプル問題による準備	CBT
		算数	PBT	PBT	PBT	PBT	PBT	PBT	
		理科		PBT			PBT		サンプル問題による準備
	中学校	国語	PBT	PBT	PBT	PBT	PBT	サンプル問題による準備	CBT
		数学	PBT	PBT	PBT	PBT	PBT	PBT	
		理科		PBT		サンプル問題による準備	CBT		
	英語			「話すこと」をMEXにて試して実施		サンプル問題による準備	CBT		
質問調査 (悉皆)	児童生徒	小規模実施 (約1万人)	中規模実施 (約20万人)	大規模実施 (約80万人)	令和6年度より全面オンライン方式に移行済				
	学校	平成28年度よりオンライン方式に移行済							
経年変化分析調査 (抽出)		PBT			PBT CBT(半数)			CBT (全面)	

※調査設計や出題、結果返却については、全国学力・学習状況調査の目的を今後より確実に達成する観点から、不断の見直しを続けていく。

図 1 今後の CBT 化の工程表

文部科学省(2024)「令和7年度以降の全国学力・学習状況調査（悉皆調査）の CBT での実施について【概要】」より

● 児童生徒質問調査の CBT 化とその意義について

文部科学省（2024a）は、全国学力・学習状況調査（特に悉皆調査）に CBT を活用する意義を整理しているが、児童生徒質問調査の設計指針についての記述は教科調査と比べると少ない。前項の通り、全国学力・学習状況調査は全面的に CBT 方式に移行することが計画されているが、その推進にあたっては、教科調査だけではなく、児童生徒質問調査の在り方についても十分に検討される必要がある。児童生徒質問調査に CBT を導入することで可能になることは、大きく 2 つ挙げられる。1 つ目は、質問調査の分冊化が容易になる点である。これまでの PBT（Paper-based Testing、以下 PBT）方式では、問題冊子・回答用紙等の印刷、配送、保管、回収コストの観点から、質問調査は単一冊子で実施され、全ての児童生徒に同じ質問を出題する必要があった。しかし CBT 方式では、システムの機能で個人ごとに異なる質問調査を割り当て、比較的成本をかけずに分冊化を実現できる。また、質問調査の分冊化は、調査全体における質問数を増加させつつ、1 人 1 人が回答する質問数を削減することを可能とさせ、児童生徒の回答負担を軽減できる点でもメリットがある。

2 つ目は、回答時のミスや負担軽減に関する工夫ができる点である。例えば、回答のしやすさを考慮した画面デザインの設計や未回答を防ぐチェック等が挙げられる。画面デザインに関しては、これまで紙面の制約で発生していた回答ミスを、直感的に分かりやすいユーザーインターフェースを設計することで解消できる可能性がある。さらに、回答漏れがあった際に、それを回答者に知らせる自動チェック機能を設計することで、欠損データを低減できると考えられる。

上述のように CBT 方式導入は児童生徒質問調査の改善に寄与する可能性を持っている。これらを検証し、今後の CBT 方式における児童生徒質問調査の構成・質問項目の構築の方法論はどのようなものか、整理が求められている。

1.2. 目的

児童生徒質問調査の CBT 化は現行の実施方式の課題を克服する可能性を有する。今後、児童生徒質問調査が国の政策形成や児童一人一人の指導に効果的に活用されるためにも、CBT 導入によって可能になること、およびその効果・留意点について整理する必要がある。

そこで本事業では、児童生徒質問調査を全面的に文部科学省 CBT システム（MEXCBT、以下 MEXCBT）で実施する際に、必要となる質問調査の設計に関する方法論案を整理する。なお本事業は、特に検討すべき事案を「質問調査の分冊化」に焦点化する。とりわけ、国際学力調査 PISA（Program for International Student Assessment、以下 PISA）で取り入れられている構成内マトリックスサンプリング法を参照した、「ランダム方式」による出題が全国学力・学習状況調査においてどのように有用であるか、またその留意点を整理する。但し「回答時のミスやストレス軽減に関する工夫」等の画面設計に関

する試行・検証については、システム開発期間や検証方法についての十分な検討が望まれることから、今後検討が求められるテーマとした上で、本事業の調査対象外とする。

1.3. 本事業の体制・実施スケジュール

● 体制

本事業はその目的に照らして、CBT 導入後の質問調査の設計・実施に関する意見収集を行う有識者委員会を設置した。各会議（計 3 回）の開催日程、議題については表 1 の通りである。なお本事業の有識者委員は、次の 3 つの観点で重要な知見を有する研究者・技術者から選出された（表 2）。

- ・ 全国学力・学習状況調査における質問調査の調査設計や児童生徒を対象とする質問調査の内容に関する専門的な知見を有する
- ・ 心理統計・教育測定の特長性に基づく項目および選択肢の設計、分析手法に関する知見を有する
- ・ 児童生徒を対象とする CBT 方式での調査や MEXCBT に関する知見に基づくシステム仕様に関する知見を有する

表 1 有識者会議の開催日程・議題

実施会	時期	議題案
第 1 回	2024 年 9 月 18 日	<ul style="list-style-type: none"> ● 現行の児童生徒質問調査の課題 ● 今後の児童生徒質問調査の改善について ● 児童生徒質問調査への分冊方式の導入の可能性
第 2 回	2024 年 10 月 7 日	<ul style="list-style-type: none"> ● 児童生徒質問調査への分冊方式の導入の可能性 ● 令和 7 年度の質問調査の分冊実施について ● 令和 6 年度の試行・検証における児童生徒質問調査について
第 3 回	2025 年 3 月 5 日	<ul style="list-style-type: none"> ● 最終報告書に関する意見収集 ● 令和 7 年度以降の質問調査の設計・実施に関する意見収集

表 2 有識者委員名簿（敬称略）

委員名	所属
川口 俊明	福岡教育大学 准教授 （主査）
貞広 斎子	千葉大学 教授
田村 知子	大阪教育大学 教授
垂見 裕子	武蔵大学 教授
土屋 隆裕	横浜市立大学 教授
永井 正一	株式会社インフォザイン
浜野 隆	お茶の水女子大学 教授

※五十音順

● 実施スケジュール

本事業の実施スケジュールは表 3 の通りである。2024 年 11 月 5 日の実証校の調査開始に先立ち、第 1 回（2024 年 9 月 18 日）・第 2 回（2024 年 10 月 7 日）有識者会議が実施された。その後、2024 年 12 月～2025 年 2 月の集計・分析期間を経て、第 3 回（2025 年 3 月 5 日）有識者会議が実施された。

表 3 本事業の実施スケジュール

日程	マイルストーン
2024 年 9 月 18 日	第 1 回有識者会議
2024 年 10 月 7 日	第 2 回有識者会議
2024 年 11 月 5 日～12 月 3 日	実証校の調査期間
2024 年 12 月～2025 年 2 月	集計・分析
2025 年 3 月 5 日	第 3 回有識者会議

2. 児童生徒質問調査への分冊方式導入の可能性

本事業は、児童生徒質問調査への CBT 導入に伴う設計・実施の在り方、とりわけ「ランダム方式」による出題を活用した質問調査の分冊化に着目し、それがどのように有用か、また留意点について整理することを目的とする。

そこで第2章では、以下の内容について述べる。まず質問調査の分冊化にあたり参照する構成内マトリックスサンプリング法について説明する (2.1.)。次に構成内マトリックスサンプリング法を実現する MEXCBT のランダムイズ機能およびシャッフル機能を紹介する (2.2)。その上で、全国学力・学習状況調査の児童生徒質問調査における活用の論点を整理 (2.3)、最後に本事業での分析内容について述べる (2.4)。

2.1. 構成内マトリックスサンプリング法

OECD (経済協力開発機構) が行う世界的な国際学力調査 PISA では、学生アンケートのデータ収集に関してこれまで様々な手法が試行されており、PISA 2022 では「構成内マトリックスサンプリング法」が採用された (国立教育政策研究所, 2024)。構成内マトリックスサンプリング法とは、ある大問について全小問ではなく一部の小問のみランダムで生徒に問う手法である。例えば、コロナによる休校期間中の学習について問う大問の中に、デジタル機器の使用、学習環境に関する小問など計8問があるが、個々の回答者にはその中から5小問がランダムに選択されて表示される。この手法を活用することで、設問数を維持しつつ、個々の回答者の負荷軽減を達成することができる (国立教育政策研究所, 2024)。

2.2. ランダム方式におけるセクション設定とシャッフル設定

このような出題方式を MEXCBT 上で実現するために、セクション設定とシャッフル設定を利用する。なお本事業では、セクション設定とシャッフル設定の両方或いはいずれかを利用した出題方式を「ランダム出題方式」と定義する。

セクション設定とは、セクション内のアイテムに対して「XX 問中 YY 問を抽出して出題すること」を指す。シャッフル設定とは、セクション内のアイテムに対して「出題する順序をランダムにすること」を指す。これら2つの設定を組み合わせることで、例えば「セクション内に登録した8つの項目のうち、5問を選択してランダムに出題する」という出題の仕方を実現する。

ここでいうセクションとは、MEXCBT で作成されるテスト構造における1つの単位である。MEXCBT のテスト構造は、テスト>パート>セクション>アイテムの構造で成り立っている。セクション設定とシャッフル設定は、セクションに対して適用可能であり、両設定を組み合わせることも可能である (図 2)。

留意点として、セクション設定またはシャッフル設定をいずれかでも実装する場合、1つの表示画面に1アイテムを出題する設計が条件となる。つまり、1つの表示画面に複数項目を表示するような形式では出題できない。(図 3)

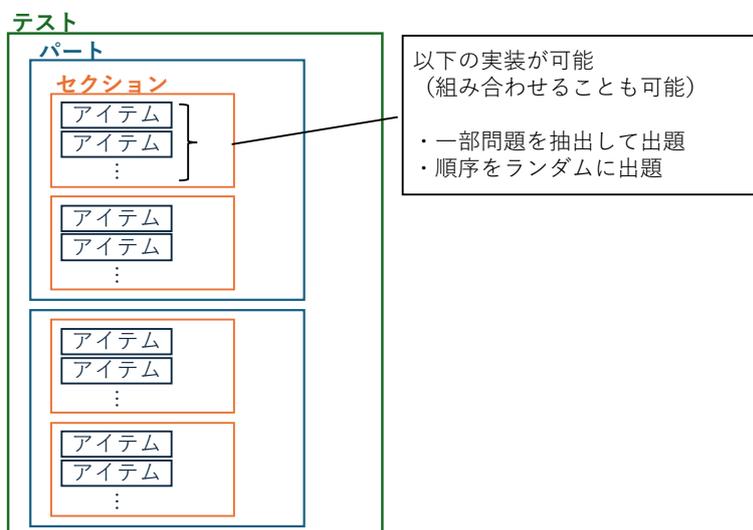


図 2MEXCBT におけるテスト構造



図 3 セクション設定またはシャッフル設定使用時における表示画面上の制約

2.3. 児童生徒質問調査における活用の論点

ランダム出題方式は、現行の児童生徒質問調査が抱える課題に対する有効策の1つになりうる。現行の児童生徒質問調査は、回答者全員に一律の問題を出題するため、児童生徒の回答負担に配慮し質問数の削減または隔年出題にするなどの対応がとられてきた。これに対し、ランダム出題方式による出題は、その課題解決に寄与できる可能性がある。一方で、ランダム出題方式を適用したとき、その結果の活用上、どのような影響があるか検討する必要がある。そこで2.3.では、児童生徒質問調査へランダム出題方式導入に関する論点（4点）を整理する。

前提として、現行の児童生徒質問調査の構成を示す。質問数は70問前後、「基本的な生活習慣等」「挑戦心・達成感・規範意識・自己有用感」等、11カテゴリに分けられており、それぞれに小問が存在する。また、各カテゴリには、毎年・隔年／3年に一度出題、という形で全体質問数を調整する方法がとられている。質問カテゴリの詳細、令和4年度からの質問数（全体・毎年・隔年／3年）の推移については、表4・表5の通りである。

表 4 全国学力・学習状況調査の設問カテゴリ(令和6年度)

カテゴリ
● 基本的な生活習慣等（8／8）
● 挑戦心・達成感・規範意識・自己有用感（11／11）
● 学習習慣、学習環境（5／9）
● 地域や社会に関わる活動の状況等（2／6）
● ICTを活用した学習状況等（8／10）
● 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況（9／10）
● 総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳（4／4）
● 学習に対する興味・関心や授業の理解度等（各教科）（9 - 12／16）
● 前年度に行った学習活動（各教科）（12 - 17／24）
● その他（部活動など）（0／4）
● 各教科に関する調査の解答状況（解答時間等）（4／4）

括弧内は、「実際に出题された数／カテゴリ内の全質問数」を表す

表 5 令和4年度からの質問数(全体・毎年・隔年／3年)の推移

	令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	小	中	小	中	小	中
全体	69		59	72	69	71
毎年	31		33		34	
3年・隔年	38		26	39	35	37

2.3.1. セレクション設定とシャッフル設定による出題頻度

1点目は、MEXCBTのセレクション設定とシャッフル設定による出題頻度についてである。今後、全国学力・学習状況調査にセレクション設定とシャッフル設定の活用を想定した際に、両機能の動作検証が求められる。具体的に、セレクション設定については「1アイテムあたりの出題人数が均等に分散しているか」、シャッフル設定については「出題順序パターンごとの人数が均等に分散しているか」を確認する必要がある。

2.3.2. シャッフル設定による順序効果

2点目は、シャッフル設定による順序効果の発生についてである。順序効果とは、同じ質問項目の回答傾向が出題される順序に影響されて変化することである。全国学力・学習状況調査において、シャッフル設定が活用可能か否かを検討するためには、「シャッフル設定による、順序効果の発生」について検証する必要がある。

2.3.3. 欠測値を含んだデータにおける心理尺度の再現性

3点目は、欠測値を含んだデータにおける心理尺度の再現性の確認である。セレクション設定では、あるセクション内から一部のアイテムを抽出して出題する。その結果、ある回答者にとって出題されなかったアイテムは、結果データ上は欠測値として扱われることになる。今後、例えば2次分析等で使用する心理尺度を、シャッフル設定で出題することを想定した場合、例えば「一定程度の欠測値を含んだデータにおいても、心理尺度として分析に活用する際に、想定した因子構造として再現可能か」を確かめておく必要がある。

2.3.4. 結果返却に対する学校現場の反応

4点目は、結果返却に対する学校現場の反応についてである。ランダム出題方式では、一部のアイテムを抽出して出題する以上、学校現場への結果返却の在り方を再検討する必要がある。つまり、これまでの単一冊子方式では、すべての質問に対し調査を実施した児童生徒全員が回答していたが、ランダム出題方式を使用すると、1問当たりの回答数が少なくなることが予想され、例えば、自校全体の傾向把握が難しくなることが考えられる。

方策として、国や自治体全体の傾向が分かればよく、児童生徒全員の回答状況が返却されなくても差し支えない項目については返却項目からは外し、一方で学校が児童一人一人の学習指導に必要な項目は引き続き全員の回答結果を返却するなど、項目の利用目的に応じた返却方法も想定される。そこで学校現場の教員にとって、全国学力・学習状況調査の質問カテゴリ11個について、児童生徒全員の回答結果返却必要性の有無を確認する必要がある。

2.4. 本事業の検証内容と使用する調査データ

2.3.の「児童生徒質問調査における活用の論点」を踏まえ、本事業では表 6 の4点について検証する。また使用する調査データは、児童生徒を対象とした教科の問題と質問調査、学校代表者を対象とした実証校アンケートである（表 7）。それぞれの調査設計については、2.4.1 および 2.4.2 に示した。

表 6 本事業における検証事項

検証 1	セレクション設定とシャッフル設定による出題頻度
検証 2	シャッフル設定による順序効果
検証 3	欠測値を含んだデータにおける心理尺度の再現性
検証 4	結果返却に対する学校現場の反応

表 7 使用する調査データ概要

名称	教科の問題・児童生徒質問調査	実証校アンケート
時期	2024年11月5日～12月3日	同左
対象	本事業実証校に在籍する 小学6年生および中学3年生 小学校 123校 4972名 中学校 62校 4651名	本事業実証校の代表者1名 計 194名

2.4.1. 児童生徒質問調査設計

● 調査対象

本事業の実証校（小学校 123 校、中学校 62 校）に調査を依頼。

所属する小学 6 年生（4972 名）・中学 3 年生（4651 名）から回答を得た。

なお不備のあった配信で調査を実施した学校については集計対象から除外している。

● 調査方法

調査には MEXCBT を使用した。

調査時間は小学校、中学校ともに 20 分程度であった。

● 調査項目

自己有用感 全国学力・学習状況調査において例年調査している項目「自分には、良いところがあると思う」を 4 件法にて尋ねた。

グリット 非認知能力のひとつであるグリットを測定するために、Duckworth による「8-Item Grit Scale」を翻訳した「Grit Scale 日本語版（子ども版）（西川ら，2015）」に基づいた質問項目（福岡教育大学，2017）を用いた。「始めたことは何でも最後まで終わらせる」や「新しい考えや計画を思いつくと前のことから気がそれてしまう」などの 8 項目で構成されており、5 件法にて尋ねた。

本の冊数 全国学力・学習状況調査において SES の代替指標として例年調査している項目「あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除きます）。」を 6 件法にて尋ねた。

習い事 「あなたは、習い事や学校外のクラブに通っていますか。行っている場合、週何回行っていますか。」について、「週 1 回行っている」「週 2～3 回行っている」「週 4 回以上行っている」「行っていない」の 4 件法で尋ねた。

生まれ 外国生まれかどうかを調査するため「ご両親（もしくは保護者の方）とあなたが生まれた国はどこですか。」について、それぞれ、「日本」「外国」「わからない」の 3 件法で尋ねた。

家庭内の所有物 SES の代替指標を検討するために「家庭内の所有物」10 項目について、それぞれの有無を尋ねた。なお、項目内容は PISA・TIMSS などの国際調査や、石井他（2019）の簡易版 SES 代替指標などを参考にし、「自分用のコンピュータ又はタブレット端末」、「自分の部屋」、「自分用の勉強机」、「家族で共有しているコンピュータ又はタブレット端末」、「インターネット回線」、「楽器（例：ギター、ピアノ、ヴァイオリン）」、「定期購読している新聞（電子新聞も含まれます。）」、「食洗機（自動食器洗い機）」、「文学作品（例：シェークスピア、夏目漱石）」、「芸術品（例：絵画、彫刻、陶磁器）」とした。

体験 SES の代替指標を検討するため、7 つの体験について「去年 1 年間でふりかえって、あなたの家では、次のことがどれくらいありましたか。」と尋ねた。どの項目も「月に 1 回以上」「2～3 か月に 1 回」「半年に 1 回」「1 年に 1 回」「連れていってもらったことはない」の 5 件法であった。

学習習慣/学習環境 全国学力・学習状況調査において例年調査している学習習慣や学習環境に関する 4 項目（平日の勉強時間・読書時間・ゲームをする時間・SNS や動画視聴をする時間）について 5 件法で尋ねた。

● セレクション項目・シャッフル項目について

本調査では、グリット、家庭の所有物、体験、学習習慣/学習環境をセレクション・シャッフル設定項目として出題した（表 8）。このうち、グリット、家庭の所有物、体験は、全項目のうち一部の項目を抽出し、かつ出題順序をランダムに入れ替えるセレクション・シャッフル設定の併用式で出題した。学習習慣/学習環境は、どの児童生徒にも全項目出題することとし、その出題順序のみをランダムで入れ替えるシャッフル方式を採用した。

その他のカテゴリについては、どの児童生徒についても全項目を同じ順序で出題する共通方式を採用した。

表 8 質問項目のセレクション設定・シャッフル設定

カテゴリ名	出題方式	全項目数	一人あたりの項目数
自己有用感	共通	1	1
グリット	セレクション／シャッフル	8	5
本の冊数・習い事・生まれ	共通	5	5
家庭の所有物	セレクション／シャッフル	10	7
体験	セレクション／シャッフル	7	5
学習習慣／学習環境	シャッフル	4	4
合計項目数		35	27

2.4.2. 実証校アンケート調査設計

- 調査対象

本事業の実証校に調査を依頼。

各校の代表者1名から回答を収集し、回答数は194名であった。

- 調査方法

調査には Microsoft Forms による WEB アンケート方式を使用した。

回答期間は、教科の問題と質問調査を実施した翌々日までとした。

- 調査項目

全国学力・学習状況調査の質問調査で尋ねる11種類の項目についてそれぞれ、1) 児童生徒一人一人の学習指導に活用しており、学校の児童生徒全員分の回答状況の返却が必要である。2) 国や自治体全体の傾向が分かればよく、児童生徒全員の回答状況が返却されなくても差し支えない。のいずれかを選択式で回答を得た。また新たな質問項目の希望についても、自由記述形式で回答を得た。

- その他

本実施は、「B.CBT での調査実施等に関する試行・検証」も兼ねていたため、端末やネットワークトラブルの状況や実施の様子に関する質問も含まれており（学校により28問～33問）、そのうちの2問が本事業に関わる上記調査項目であった。

3. 検証

3.1. セレクション設定とシャッフル設定による出題頻度

MEXCBTにおけるセレクション設定とシャッフル設定の動作検証をするため、それぞれの設定を施した質問項目群をピックアップし、出題人数を算出した。具体的に、セレクション設定については「グリット（8問中5問を抽出）」、シャッフル設定については「学習習慣/学習環境（全4問の出題順序を入替）」を検証に用いた。但し「グリット」は、セレクション設定とシャッフル設定の併用型であるが、今回はセレクション設定の検証として用いた。なお、この検証では小学6年生の回答データ（4,972名）を使用した。

● セレクション設定の出題頻度

「グリット（8問中5問を抽出）」について、各項目が出題された人数及び総回答人数に対する割合を算出した。

検証の結果、小学6年生4972名のうち、各項目の出題人数はそれぞれ（1）3,114名（62.6%）・（2）3,148名（63.3%）・（3）3,116名（62.7%）・（4）3,073名（61.8%）・（5）3,109名（62.5%）・（6）3,068名（61.7%）・（7）3,109名（62.5%）・（8）3,123名（62.8%）であった（表9）。

質問ごとの出題人数は、全体の回答人数のうち61.7%～63.3%であり、概ね均等に分散していることが分かる。

表9 セレクション設定による出題頻度

校種	内容	出題人数（全体人数：4972名）	全体人数に対する出題人数の割合
小学校	(1) 新しい考えや計画を思いつくと、 前のことから気がそれてしまうことがあります	3114	62.6%
	(2) わたしは、がっかりしたあと、 ほかの人よりも立直るのがはやいです	3148	63.3%
	(3) 少しの間、ある考えや計画のことで頭がいっぱいになっ ても、しばらくするとあきてしまいます	3116	62.7%
	(4) がんばりやさんです	3073	61.8%
	(5) いったん目標を決めてから、 そのあと別の目標に変えることがよくあります	3109	62.5%
	(6) 終わるまでに何か月もかかるようなことに 集中しつづけることができません	3068	61.7%
	(7) 始めたことはなんでも最後まで終わらせませ	3109	62.5%
	(8) まじめにコツコツとやるタイプです	3123	62.8%

● シャッフル設定の出題頻度

「学習習慣/学習環境（全4問の出題順序を入替）」について、出題パターン計24パターンごとに、出題された人数及び総回答人数に対する割合を算出した。

検証の結果、出題された人数が最も多かったのが（1）→（2）→（3）→（4）で360名（7.2%）最も少なかったのが（2）→（4）→（1）→（3）で145名（2.9%）であった。また、その他の出題パターンの結果については表10の通りである。

出題パターンごとの出題人数割合は、上述の通り2.9%～7.2%のばらつきが見られ、セレクション設定の出題頻度と比較すると、均等に分散するわけではないことが分かる。

表 10 シャッフル設定による出題パターンごとの出題頻度

校種	出題順序パターン	出題人数 (全体人数：4972名)	全体人数に対する出題人数の割合
小学校	(1) → (2) → (3) → (4)	360	7.2%
	(1) → (2) → (4) → (3)	200	4.0%
	(1) → (3) → (2) → (4)	238	4.8%
	(1) → (3) → (4) → (2)	221	4.4%
	(1) → (4) → (2) → (3)	197	4.0%
	(1) → (4) → (3) → (2)	244	4.9%
	(2) → (1) → (3) → (4)	254	5.1%
	(2) → (1) → (4) → (3)	191	3.8%
	(2) → (3) → (1) → (4)	233	4.7%
	(2) → (3) → (4) → (1)	164	3.3%
	(2) → (4) → (1) → (3)	145	2.9%
	(2) → (4) → (3) → (1)	204	4.1%
	(3) → (1) → (2) → (4)	208	4.2%
	(3) → (1) → (4) → (2)	153	3.1%
	(3) → (2) → (1) → (4)	226	4.5%
	(3) → (2) → (4) → (1)	215	4.3%
	(3) → (4) → (1) → (2)	185	3.7%
	(3) → (4) → (2) → (1)	153	3.1%
	(4) → (1) → (2) → (3)	164	3.3%
	(4) → (1) → (3) → (2)	239	4.8%
(4) → (2) → (1) → (3)	211	4.2%	
(4) → (2) → (3) → (1)	239	4.8%	
(4) → (3) → (1) → (2)	176	3.5%	
(4) → (3) → (2) → (1)	153	3.1%	

3.2. シャッフル設定による順序効果

シャッフル設定による順序効果の発生について検証するため、「学習習慣/学習環境（全4問の出題順序を入替）」について、各質問が何番に出題されたか（1・2・3・4番目）によって、回答傾向に違いが生じるかを調べた。具体的には、各設問の出題順番によって「(1) 勉強時間」・「(2) 読書時間」・「(3) ゲームをする時間」・「(4) SNS や動画視聴をする時間」の得点に差があるかを検討するため、1 要因分散分析を行った。なお、分析にあたり各選択肢を数値に変換している。また質問内容が発達段階によって異なる傾向がみられる可能性があることから、校種を分けて分析した。

各群の「(1) 勉強時間」・「(2) 読書時間」・「(3) ゲームをする時間」・「(4) SNS や動画視聴をする時間」の平均値を表 11・図 4（小学校）・表 12・図 5（中学校）にそれぞれ示した。1 要因分散分析の結果、小学校では (1) $F(3, 4962) = 13.90, p < .05$ 、(2) $F(3, 4965) = 9.32, p < .05$ 、(3) $F(3, 4963) = 18.10, p < .05$ 、(4) $F(3, 4296) = 9.57, p < .05$ であり、4 問いずれも群間の平均値差は 5%水準で有意であった。中学校では (1) $F(3, 4629) = 0.58, p > .05$ 、(2) $F(3, 4626) = 10.41, p < .05$ 、(3) $F(3, 4634) = 47.91, p < .05$ 、(4) $F(3, 4529) = 15.87, p < .05$ であり、(2) を除き、(1) (2) (3) について群間の平均値差は 5%水準で有意であった。加えて、Turkey の HSD 法（5%水準）による多重比較を行い、結果を表 11・表 12 に記載した。

分析の結果から、以下のことが明らかになった。

- (1) 勉強時間について
小学校では出題順序による回答結果の差異がみられた
ただし、中学校においてはみられなかった。
- (2) 読書時間について
小学校・中学校ともに出題順序による回答結果の差異がみられた。
- (3) ゲーム時間について
小学校・中学校ともに出題順序による回答結果の差異がみられた。
- (4) SNS/動画視聴時間について
小学校では出題順序による回答結果の差異がみられた

表 11 1要因の分散分析の結果(小学校)

		出題順				分散分析の結果	多重比較の結果
		1番目	2番目	3番目	4番目		
(1)	平均	3.71	3.54	3.49	3.39	F(3, 4962) = 13.90 $p < .05$	1番目 > 2番目, 3番目, 4番目 2番目 > 4番目
	標準偏差	1.32	1.28	1.28	1.33		
(2)	平均	2.87	2.84	2.64	2.62	F(3, 4965) = 9.32 $p < .05$	1番目 > 3番目, 4番目 2番目 > 3番目, 4番目
	標準偏差	1.54	1.49	1.47	1.42		
(3)	平均	4.10	3.78	3.73	3.68	F(3, 4963) = 18.10 $p < .05$	1番目 > 2番目, 3番目, 4番目
	標準偏差	1.49	1.50	1.56	1.53		
(4)	平均	3.90	3.89	3.66	3.62	F(3, 4296) = 9.57 $p < .05$	1番目 > 3番目, 4番目 2番目 > 3番目, 4番目
	標準偏差	1.55	1.57	1.58	1.65		

<選択肢の集計処理>

「(1) 勉強時間」について、「3時間以上」を6、「2時間以上, 3時間より少ない」を5、「1時間以上, 2時間より少ない」を4、「30分以上, 1時間より少ない」を3、「30分より少ない」を2、「全くしない」を1に変換した。「(2) 読書時間」について、「2時間以上」を6、「1時間以上, 2時間より少ない」を5、「30分以上, 1時間より少ない」を4、「10分以上, 30分より少ない」を3、「10分より少ない」を2、「全くしない」を1に変換した。「(3) ゲームをする時間」について、「4時間以上」を6、「3時間以上, 4時間より少ない」を5、「2時間以上, 3時間より少ない」を4、「1時間以上, 2時間より少ない」を3、「1時間より少ない」を2、「全くしない」を1に変換した。「(4) SNSや動画視聴をする時間」について、「4時間以上」を6、「3時間以上, 4時間より少ない」を5、「2時間以上, 3時間より少ない」を4、「1時間以上, 2時間より少ない」を3、「30分以上, 1時間より少ない」を2、「30分より少ない」を1、「携帯電話やスマートフォンを持っていない」は集計から除いた。なお、いずれの質問項目において無回答は集計から除いている。

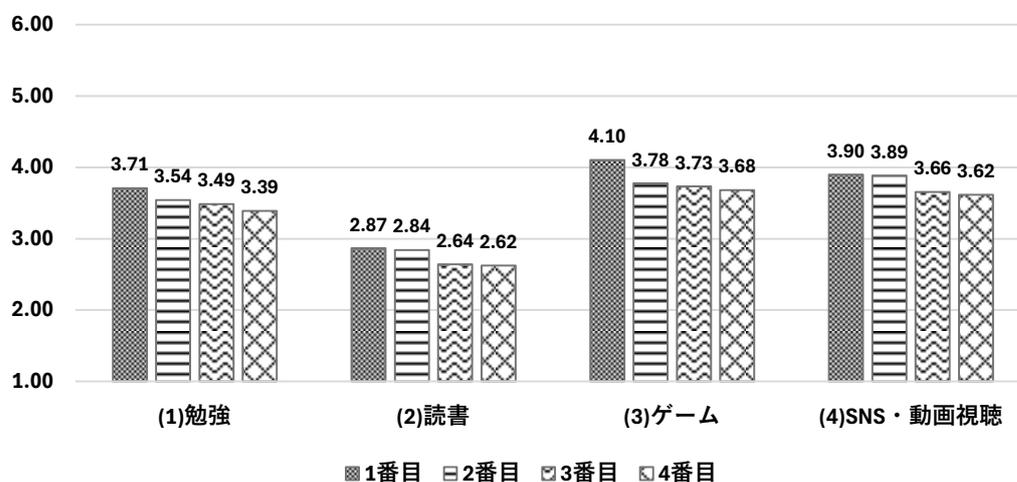


図 4 出題順番による勉強・読書・ゲーム・SNS/動画視聴時間の平均値比較(小学校)

表 12 1要因の分散分析の結果(中学校)

		出題順				分散分析の結果	多重比較の結果
		1番目	2番目	3番目	4番目		
(1)	平均	4.27	4.23	4.26	4.20	F(3, 4629) = 0.58 $p > .05$	-
	標準偏差	1.31	1.29	1.32	1.39		
(2)	平均	2.74	2.59	2.49	2.40	F(3, 4626) = 10.41 $p < .05$	1番目 > 3番目, 4番目 2番目 > 4番目
	標準偏差	1.58	1.47	1.45	1.44		
(3)	平均	4.06	3.73	3.53	3.28	F(3, 4634) = 47.91 $p < .05$	1番目 > 2番目, 3番目, 4番目 2番目 > 3番目, 4番目 3番目 > 4番目
	標準偏差	1.56	1.54	1.63	1.63		
(4)	平均	4.32	4.23	4.01	3.99	F(3, 4529) = 15.87 $p < .05$	1番目 > 3番目, 4番目 2番目 > 3番目, 4番目
	標準偏差	1.33	1.39	1.39	1.42		

<選択肢の集計処理>

「(1) 勉強時間」について、「3時間以上」を6、「2時間以上, 3時間より少ない」を5、「1時間以上, 2時間より少ない」を4、「30分以上, 1時間より少ない」を3、「30分より少ない」を2、「全くしない」を1に変換した。「(2) 読書時間」について、「2時間以上」を6、「1時間以上, 2時間より少ない」を5、「30分以上, 1時間より少ない」を4、「10分以上, 30分より少ない」を3、「10分より少ない」を2、「全くしない」を1に変換した。「(3) ゲームをする時間」について、「4時間以上」を6、「3時間以上, 4時間より少ない」を5、「2時間以上, 3時間より少ない」を4、「1時間以上, 2時間より少ない」を3、「1時間より少ない」を2、「全くしない」を1に変換した。「(4) SNSや動画視聴をする時間」について、「4時間以上」を6、「3時間以上, 4時間より少ない」を5、「2時間以上, 3時間より少ない」を4、「1時間以上, 2時間より少ない」を3、「30分以上, 1時間より少ない」を2、「30分より少ない」を1、「携帯電話やスマートフォンを持っていない」は集計から除いた。なお、いずれの質問項目において無回答は集計から除いている。

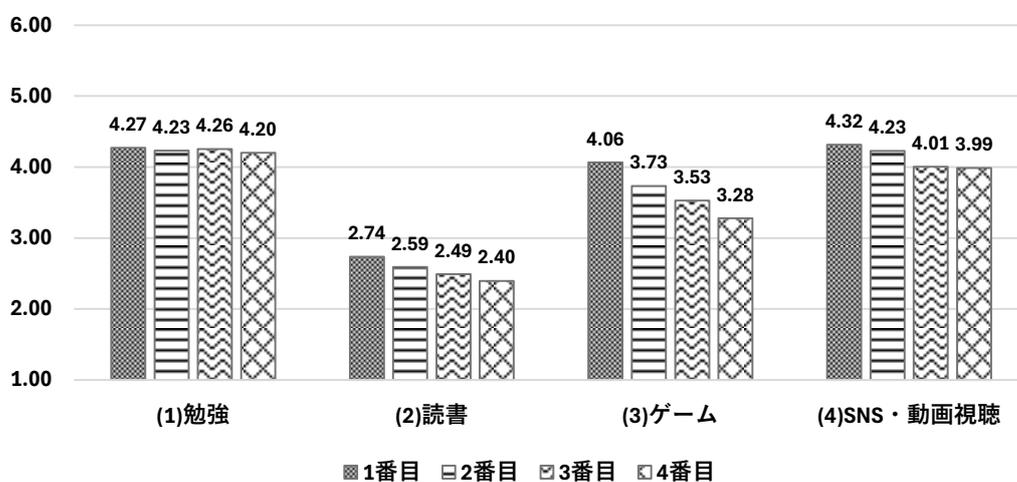


図 5 出題順番による勉強・読書・ゲーム・SNS/動画視聴時間の平均値比較(中学校)

3.3. 欠測値を含んだデータにおける心理尺度の再現性

セレクション出題方式を活用したとしても、先行研究と同一の因子構造が再現可能かを検討した。分析には、「グリット（8問中5問を抽出）」を使用し、尺度について確認的因子分析を行った。具体的には、「Grit Scale 日本語版（子ども版）（西川，奥上，雨宮 2015）」に基づき、根気と一貫性の2因子を想定したモデルで分析した。なお分析には、オープンソースの統計ソフトウェア環境である R4.4.0 の lavaan パッケージに含まれる cfa()関数を用いた。欠測値に関しては、完全情報最尤（Full-Information Maximum Likelihood）法を活用して処理を行った。また、発達段階によって異なる回答傾向がみられる可能性があることから、校種を分けて分析した。分析対象者数は、小学生 4,971 名、中学生 4,644 名であった（グリットの尺度項目について1つも回答がなかった小学生 1 名、中学生 7 名を除外している）。

確認的因子分析の結果、適合度について、小学生は CFI = .947、TLI = .922、RMSEA = .044 (90%CI[.038, .049])、SRMR = .046 となり、中学生は CFI = .926、TLI = .891、RMSEA = .053 (90%CI[.047, .059])、SRMR = .055 であった（表 13）。

この結果から、データに対するモデルの当てはまりは許容できると判断できる。

表 13 グリット項目の確認的因子分析の結果

	CFI	TLI	RMSEA	SRMR
小学生	.947	.922	.044 (90%CI[.038, .049])	.046
中学生	.926	.891	.053 (90%CI[.047, .059])	.055

3.4. 結果返却に対する学校現場の反応

ランダム出題方式を活用した場合、結果返却の方策として、国や自治体全体の傾向が分かればよく、児童生徒全員の回答状況が返却されなくても差し支えない項目については返却項目からは外し、一方で学校が児童一人一人の学習指導に必要な項目は引き続き全員の回答結果を返却するなど、項目の利用目的に応じた返却方法も想定される。そこで、実証校に対し全国学力・学習状況調査で問われる 11 カテゴリについて結果返却の必要性の有無を尋ねた。

調査の結果、194 名から回答が得られた。回答結果について「1) 児童生徒一人一人の学習指導に活用しており、学校の児童生徒全員分の回答状況の返却が必要である。」の回答割合が多いカテゴリ順にグラフを作成した(図 6)。11 カテゴリのうち 9 カテゴリについて「1) 児童生徒一人一人の学習指導に活用しており、学校の児童生徒全員分の回答状況の返却が必要である。」の方が「2) 国や自治体全体の傾向が分かればよく、児童生徒全員の回答状況が返却されなくても差し支えない。」を上回る結果となった。該当するカテゴリは、「①基本的な生活習慣等(例:朝食を毎日食べている)」「②挑戦心、自己有用感、幸福感等(例:自分には、よいところがあると思う)」「③学習習慣、学習環境等(例:あなたの家には、おおよそどれくらいの本がありますか)」「④地域や社会に関わる活動の状況等(例:地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う)」「⑥主体的・対話的で深い学び(例:授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた)」「⑦総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳(例:総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる)」「⑧学習に対する興味・関心(例:国語(算数ほか)の勉強は好きだ)」「⑨授業の理解度(例:国語(算数ほか)の授業の内容はよく分かる)」「⑩各教科の学習状況(例:算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える。理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている)」であった。1) 2) の間で特に差が大きかったのは「⑨授業の理解度(例:国語(算数ほか)の授業の内容はよく分かる)」というカテゴリで、全員の回答状況の返却が必要と考える回答者が多かった。

一方、11 カテゴリのうち 2 カテゴリについて「2) 国や自治体全体の傾向が分かればよく、児童生徒全員の回答状況が返却されなくても差し支えない。」の方が「1) 児童生徒一人一人の学習指導に活用しており、学校の児童生徒全員分の回答状況の返却が必要である。」を上回る結果となった。該当するカテゴリは、「⑤ICT を活用した学習状況(例:5 年生(中学 2 年生)までに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか)」「⑪調査問題の解答状況(例:解答時間は十分でしたか)」であった。

加えて、学校現場がどの程度のカテゴリ数の返却を望んでいるか、その概況を確認するため、「1) 児童生徒一人一人の学習指導に活用しており、学校の児童生徒全員分の回答状況の返却が必要である。」と回答した数を基に度数分布表を作成した(表 14)。

結果から、返却が必要なカテゴリが0個であった回答者は41名(21.1%)、1個から5個が24名(12.4%)、6個から10個が66名(34.0名)、11個が63名(32.5%)であった。

また児童生徒質問調査で調査してほしい内容について自由記述形式で問う質問では、回答のあった83件の中で、「特になし」に関連する回答を除くと21件の回答が残った。自由記述内容について、分類を行った(表15)。回答例としては、家庭内の学習時間や会話頻度、誰と最も話しているかなどといった家庭に関する質問やICTや生成AI活用に関する質問、その他、非認知能力や学習意欲等も挙げられた。

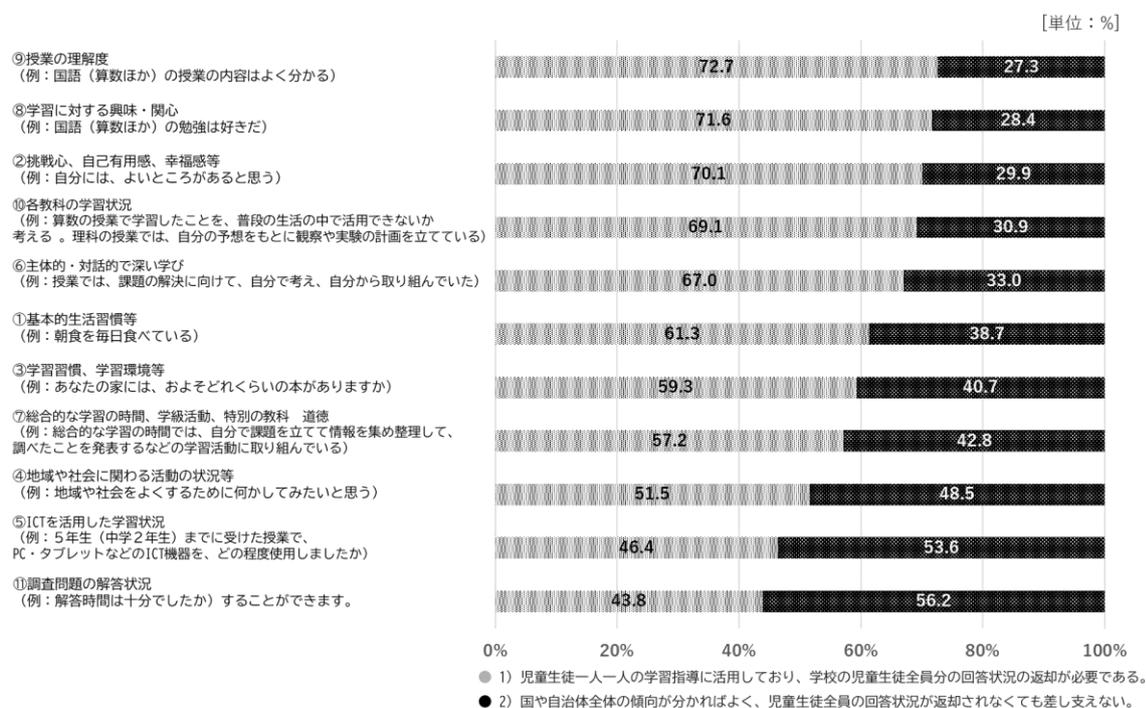


図 6 実証校アンケートの回答結果

表 14 結果返却を希望するカテゴリの数

児童生徒全員分の回答状況の返却が必要と回答したカテゴリ数	人数	割合
0個	41	21.1%
1~5個	24	12.4%
6~10個	66	34.0%
11個	63	32.5%
合計	194	100.0%

表 15 児童生徒質問調査で調査してほしい内容(自由記述)

主な自由記述内容
<p><家庭に関する質問></p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭内の学習時間／ゲームの利用時間／ Youtube 等の動画視聴時間／ SNS 利用時間／読書時間／運動時間／睡眠時間 ・家庭内の会話頻度。(学校や授業、先生のこと、学習や進路について) ・家庭内で誰と最も話しているか ・家庭内のデジタル機器に対するルール ・個人のスマートフォンやタブレット等の端末所持数・所持率
<p><ICT や生成 AI に関する質問></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の ICT 環境に対する所感 ・生成 AI に対する所感
<p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・非認知能力 ・学習意欲 ・授業が楽しいと思えるか

※記述内容について表現を一部修正し、分類を行った

4. 結論・今後の展望

4.1. 検証結果のまとめ

本事業では、児童生徒質問調査への CBT 導入に伴う設計・実施の在り方、とりわけ「ランダム方式」による出題を活用した質問調査の分冊化に着目し、それがどのように有用か、また留意点について整理することを目的として、大きく4つの検証を試みた。その結果、以下の事柄が明らかとなった。

第一に、セレクション設定とシャッフル設定による出題頻度を調べた結果、セレクション設定は、質問ごとの出題人数が全体の回答人数のうち 61.7% ~ 63.3%と概ね均等に分散するのに対して、シャッフル設定は、出題パターン計 24 パターンごとの出題人数が 2.9%~7.2%とセレクション設定と比較し出題頻度が分散していた。よって、MEXCBT のセレクション設定では出題頻度を均等に出题することができるが、シャッフル設定では出題パターンごとに割当人数が必ずしも均等になるわけではないことが分かる。今後、全国学力・学習状況調査への活用を想定する場合、双方の設定に関する具体的なシステム仕様を確認した上で調査設計をすることが必要である。

第二に、シャッフル設定による順序効果を検証した結果、小学校・中学校ともに「読書時間」「ゲームをする時間」「SNS や動画視聴をする時間」について出題順序による回答結果の差異がみられた。また小学校で「勉強時間」について出題順序による回答結果の差異がみられた。このことによって、学習習慣／学習環境の4項目では、たしかに順序効果が起こっていたことが可視化されたといえる。山口（2011）は、順序効果を確認した後の集計方法として、異なる順序で出題した結果を合算するか、1つの出題順序の回答結果のみを採用することを提示している。全国学力・学習状況調査への活用を検討する場合、こうした順序効果の発生と集計方法を念頭におき、シャッフル設定を利用するか否か検討を行う必要がある。

第三に、ランダム出題方式を活用して出題した「グリット（8問中5問を抽出）」について確認的因子分析を行った結果、データに対するモデルの当てはまりは許容範囲であると判断された。つまり、「グリット」については、欠測値が発生するランダム出題方式（但し、8問中5問を抽出の場合）においても先行研究と同様の因子構造が再現可能といえる。OECD(2024)によると、PISA2022 の質問調査設計では、内部整合性の観点から各構成要素 8~10 項目から 5 項目を下限としてランダム出題する設計としている。今後、全国学力・学習状況調査においてセレクション設定を活用し、心理尺度を測定する際に参考にすべき指標といえる。また留意点として、今回「グリット（8問中5問を抽出）」のセレクション設定は全8問から無作為に5問を抽出するもので、下位尺度である根気尺度・一貫性尺度のそれぞれから均等に抽出されるわけではない。その場合、回答者によっては片方の下位尺度に偏った出題がなされる場合があるため、推定結果が不安定になる可能性がある。心理尺度、とりわけ複数の下位尺度を有するものに対しセレクション設定を活用

する場合は、各下位尺度に偏った抽出がされないよう、また、下位尺度単位で十分な項目数が出題されるよう注意する必要がある。

第四に、全国学力・学習状況調査で問われる 11 カテゴリについて結果返却の必要性の有無を尋ねた結果、11 カテゴリのうち 9 カテゴリについて「1) 児童生徒一人一人の学習指導に活用しており、学校の児童生徒全員分の回答状況の返却が必要である。」の方が「2) 国や自治体全体の傾向が分かればよく、児童生徒全員の回答状況が返却されなくても差し支えない。」を上回り、残り 2 カテゴリについてその逆の結果となった。返却の必要性が高かったカテゴリのうち「授業の理解度」「学習に対する興味・関心」「挑戦心、自己有用感、幸福感等」「各教科の学習状況」「主体的・対話的で深い学び」は特に学校現場にとっての関心度の高い項目と考えられる。また「基本的生活習慣等」「学習習慣、学習環境等」「総合的な学習の時間、学級の活動、特別の教科、道徳」「地域や社会に関わる活動の状況等」に関しては、国を主体とした方が調査を受け入れられやすい項目と考えられているために 1) が 2) を上回ったと考えられる。一方で返却の必要性の低かったカテゴリは「ICT を活用した学習状況」「調査問題の解答状況」であった。これらは、学校として結果を確認するよりも、全体的な傾向のフィードバックとしての返却が望まれていると考えられる。

また、返却が必要なカテゴリが 0 個であった回答者は 41 名 (21.1%)、1 個から 5 個が 24 名 (12.4%)、6 個から 10 個が 66 名 (34.0 名)、11 個が 63 名 (32.5%) であった。このことから、一定数の学校が結果返却を不要或いは、一部カテゴリについて必要、すべて必要とそれぞれの層が存在することが分かる。ランダム方式を活用した場合の結果返却の在り方を検討する際には、各学校に返却希望に関する異なる立場があることに留意し、特に返却を希望している層が何故そのカテゴリの返却を望んでいるのかを把握しながら議論する必要がある。

4.2. 今後の展望

これまで児童生徒質問調査へのランダム方式による出題を活用した際の有用点・留意点を 4 つの検証によって明らかにしてきたが、4.2. では、それらを踏まえ今後の児童生徒質問調査を改善する上で重要となる論点を示す。またここでは、ランダム出題方式に限らず児童生徒質問調査を改善する論点について幅広く述べる。なお本項の内容は、本事業における有識者会議で得られた意見を集約し、再整理したものである。

4.2.1. 質問目的の明確化と結果返却について

全国学力・学習状況調査は、国全体の傾向を把握し政策形成に生かすことと児童生徒一人一人の指導に生かすことという複数の目的を兼ねた調査である。ランダム出題方式を導入し質問項目を見直す（数年に 1 度など分散して尋ねていた質問項目や新たな心理尺度を追加する等）にあたっては、政策に活かす質問項目（例：学力等に対する説明要因になる

項目)はランダム項目、指導に活かす質問項目(例:学校や自治体にとっての成果・達成度の指標になる項目)は共通項目という形で、目的を明確にした上で行うべきである。ランダム出題方式の活用自体が自己目的化することがないよう、質問項目一つ一つの活用目的を整理することが重要である。

全国学力・学習状況調査の結果返却は、主に都道府県・市町村・学校単位で行われるが、それぞれのステークホルダーが結果を活用できるような在り方を検討することが必要である。各提供先において重要な成果・達成度の指標に設定されている項目については共通項目、国全体の傾向を把握し政策形成に生かされるなど悉皆で問う必要性が比較的低い項目についてはランダム項目にするなど、各ステークホルダーの観点に応じた丁寧な整理が必要である。

4.2.2. 学力格差の観点から追加が望まれる質問項目

学力は一見、本人の能力と努力によるものだと捉えられやすいが、既に多くの先行研究が明らかにしてきた通り、本人が変えることのできない様々な要因による影響を受ける。それらの影響に左右されない教育の実現を目指すことが重要であるが、その施策検討のためには例えば以下に挙げるような質問項目(「家庭の社会経済的背景」「外国にルーツを持つ子どもたち」「ジェンダーステレオタイプに起因する学習に対する意識」)を調査することが必要と考えられる。なお、この3つのポイントは川口(2019)が、学力格差に関する研究のトピックとして整理した内容とも重なる。

● 家庭の社会経済的背景(SES:Socio Economic Status)

例えば、児童生徒の学力と家庭の社会経済的背景との関連は多くの先行研究で指摘されてきた。特に全国学力・学習状況調査の追加分析調査として実施された「保護者に対する調査」では、世帯年収や父親・母親の最終学歴といった要因が学力格差を生じさせていることを示した(お茶の水女子大学, 2014・2018)。この調査は他にも、厳しい家庭環境に置かれているが高い達成度をあげた児童生徒に着目するなど、現有の格差をいかに縮めていくかという観点でもいくつかの分析結果を提示している。このように社会経済的背景に関する指標を調査で取得することは、社会経済的背景に関する現状把握のみならず、その影響を統制した上での学力分析を可能とし、学力格差縮小の施策検討のエビデンスとすることができる。

現状、全国学力・学習状況調査の児童生徒質問調査においては、社会経済的背景を測定する代替指標として「家庭で保有する本の冊数」を問う質問(あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか(雑誌、新聞、教科書は除きます。))が取り入れられたものの、この1項目のみである。より精度高く社会経済的背景を考慮した分析を実施するためには、妥当性・信頼性の観点から、単一項目ではなく複数の項目を合成した変数を作成す

ることも必要であると考えられる。また昨今、電子書籍の利用が普及していることから時代に合った内容に修正していくことが必要である。

- **外国にルーツを持つ子どもたち**

文部科学省（2024b）は、初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（令和6年12月25日中央教育審議会諮問）の中で、教育課題の1つとして外国人児童生徒等、教育的支援を要する子どもたちが増加していることを挙げている。Ishidaら（2016）は、PISA2000から2012の結果データを統合し、外国にルーツを持つ子どもたちの学力分析を行った。結果、第1世代の子どもたちの学力が低いこと、家庭内で日本語が話されるかが学業成績の重要な要因となっていることが分かった。つまり、外国にルーツを持つ児童生徒の問題も、学力格差に関する重要な1要因と考えられ、外国にルーツを持った児童生徒であるかを調査することは、学力格差を検討する上で、重要な要素となる。

現行の児童生徒質問調査では、外国にルーツを持つことに関する項目は取得していないが、学力分析や当該児童生徒への支援策検討にあたり重要な指標といえるため項目追加が望まれる。

- **ジェンダーステレオタイプに起因する学習に対する意識**

ジェンダーと学力に関する研究では、特に男女の学力差に関するテーマが多く取り上げられている。1980年代後半から特に理科学習における主に男女差に関する研究が実施され、中等教育段階から女性が理科学習から離れていく傾向が明らかにされてきた。稲田（2019）は、理科学習における男女差の実態と男女差の要因に関する先行研究をレビューした上で、理科教育のジェンダーに関連する諸問題は現在も残り続けていることを指摘している。さらに伊佐ら（2014）は、ジェンダー差が理系進路選択に対しても影響を及ぼしていることを、小中学生を対象に実施された学力調査のデータを用いて定量分析で明らかにした。

こうした学力や学習意識のジェンダー差を定点的に調査し、施策立案に役立てるためには、全国学力・学習状況調査の質問調査において、理科学習に対する意識に関する項目を充実させることも一案といえる。

4.2.3. 質問調査の構成・データの管理上の工夫、分析上の留意点

全国学力・学習状況調査における児童生徒質問調査の改善にあたり、質問調査の構成・データの管理・分析の観点から取り組み可能だと考えられることを示す。

- **質問調査の構成**

全国学力・学習状況調査の CBT 化により、児童生徒質問調査における各質問を問うタイミングを柔軟に設定することが可能となる。例えば、これまで児童生徒質問調査の時間に問っていた教科に関する質問を、教科調査の最後に問うことが実現できるようになる。こうすることで、児童生徒質問調査として回答する質問が分散し、結果として児童生徒の回答負荷が軽減される可能性がある。

但し、質問項目を教科調査の中に組み込むことで、システム上は教科調査データ内に該当質問項目の回答データが記録される。集計開始前のデータ整備作業の観点からは、教科調査データ内に多くの児童生徒質問調査項目データが混在することは望ましいとはいえない。こうした懸念を考慮しつつ、CBT のメリットである質問位置の柔軟な変更を活用していくことが望まれる。

● 質問項目のナンバリング

全国学力・学習状況調査では、文部科学省委託事業として大学等の研究機関に対して全国学力・学習状況調査のデータを使った専門的な課題分析ができるような取り組みを行っている（文部科学省委託事業「学力調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究」）。こうした二次分析等を想定した際、質問項目に規則的なユニーク ID が付与されている方が、利用者目線でデータの整理や分析がしやすくなると考えられる。

特に、数年に1度出題する方式や、本事業で検証したランダム出題方式を活用する場合は、それぞれの質問項目が年度ごとに異なる順序で出題されることになる。そのような中でも、カテゴリ毎、項目毎のナンバリング規則を決め、1つ1つの質問 ID をユニークにしておくことで、分かりやすいデータの管理をすることが可能になる。

なお、参考として本事業では（図 7）の通り4桁で構成し、先頭1桁を「大カテゴリ」先頭から2桁目を「小カテゴリ」末尾の2桁を「項目番号」と規則を設けた。また質問項目 ID は（表 16 左）の通り管理しているが、実際に出題する際は（表 16 右）の通り小カテゴリ単位で位置を変更した。

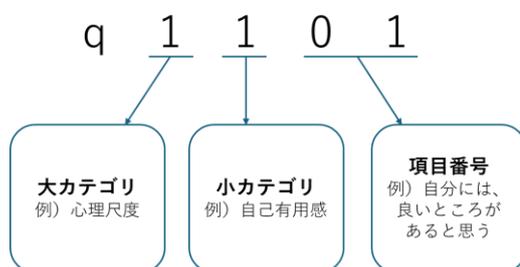


図 7 本事業でのナンバリング規則

● ランダム出題方式利用時における「保護者に対する調査」との連携方法の検討

全国学力・学習状況調査では、家庭状況と児童生徒の学力等の関係进行分析することを目的として「保護者に対する調査」を実施してきた。この調査は、平成25年度・平成29年度・令和3年度に実施され、層化集落抽出法を用いて無作為に抽出された公立学校で本体調査を受けた児童生徒の保護者を対象に、児童生徒の家庭状況や保護者の教育に関する考え方等について尋ねている。保護者に対する調査は家庭状況等の情報を取得しており、全国学力・学習状況調査と紐づけて分析することで、学力格差の在り様を確認できる。例え

表 16 本事業における質問 ID の管理表(左)、実際の出題順序(右)

大カテゴリ		中カテゴリ		項目
1	心理尺度	1	自己有用感	1
1	心理尺度	2	グリット	01~08
2	SES代替指標	1	本の冊数・習い事・生まれ	01~05
2	SES代替指標	2	家庭内の所有物	01~10
2	SES代替指標	3	体験	01~07
3	学習習慣/学習環境	1	学習習慣/学習環境	01~04

大カテゴリ		中カテゴリ		項目
1	心理尺度	1	自己有用感	1
1	心理尺度	2	グリット	01~08
2	SES代替指標	2	家庭内の所有物	01~10
2	SES代替指標	3	体験	01~07
3	学習習慣/学習環境	1	学習習慣/学習環境	01~04
2	SES代替指標	1	本の冊数・習い事・生まれ	01~05

ば、お茶の水女子大学（2014・2018）は、文部科学省の委託により、この保護者に対する調査と全国学力・学習状況調査を用い、家庭の社会経済的背景（SES）と学力の関係等について分析を実施している。

今後、ランダム出題方式を全国学力・学習状況調査に活用した場合、一定程度の割合で欠測値が発生するが、そのとき保護者に対する調査といかに結合し、分析する必要があるか考慮する必要がある。例えば、保護者調査は無作為抽出された学校の保護者を対象としているが、全国学力・学習状況調査と紐づけたときに、ランダム出題された質問が適切に分散するかなど、ランダム出題をすることによる懸念等を確認しておく必要がある。

参考文献

- 福岡教育大学, 2017, 『児童生徒や学校の社会経済的背景を分析するための調査の在り方に関する調査研究』.
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/11/28/1398296_4.pdf. (2025年2月5日閲覧)
- 伊佐夏実・知念渉, 2014, 『理系科目における学力と意欲のジェンダー差』日本労働研究雑誌, 56(7).
- Ishida, Kenji, Nakamuro, Makiko, & Takenaka, Ayumi, 2016, “The Academic Achievement of Immigrant Children in Japan” Educational Studies in Japan, 10.
- 石井僚・村山航・福住紀明・石川信一・大谷和夫・榎美知子・鈴木高志・田中あゆみ, 2019, 『家庭の所有物を用いた中学生用簡易版社会経済的地位代替指標の作成』心理学研究, 90(5).
- 川口俊明, 2019, 『日本の学力研究の動向』福岡教育大学紀要, 68(4).
- 国立教育政策研究所, 2024, 『生きるための知識と技能 8 OECD 生徒の学習到達度調査 (PISA) 2022 年調査国際結果報告書』明石書店.
- 文部科学省, 2024a, 『令和7年度以降の全国学力・学習状況調査(悉皆調査) CBTでの実施について【概要】(令和6年9月改定)』.
https://www.mext.go.jp/content/20240920-mxt_chousa02-000035736_1.pdf.
(2025年2月5日閲覧)
- 文部科学省, 2024b, 『初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について(令和6年12月25日中央教育審議会諮問)【概要】』.
https://www.mext.go.jp/content/20241226-mxt_kyoiku01-000039494_02.pdf.
(2025年2月5日閲覧)
- 西川一二・奥上紫織里・雨宮俊彦, 2015, 『日本語版 ShortGrit (Grit-S) 尺度の作成』パーソナリティ研究, 24(2).
- お茶の水女子大学, 2014, 『全国学力・学習状況調査(きめ細かい調査)の結果を活用した学力に影響を与える要因分析に関する調査研究』.
- お茶の水女子大学, 2018, 『保護者に対する調査の結果と学力等との関係の専門的な分析に関する調査研究』.
- OECD, 2024, “PISA 2022 Technical Report” PISA, OECD Publishing.
- 山口洋, 2011, 『質問の順序効果の2類型—位置の効果, 位置と質問の交互作用効果—』佛教大学社会学部論集, 52.

付録

資料1. 児童生徒質問調査集計結果

各調査項目に対する各選択肢の回答割合、回答した人数とその項目が出題された割合を以下に示す。

自己有用感

次のことは、あなたにどれくらい当てはまりますか。最も近い番号を1つ選んでください。

校種	内容	選択肢					人数 (割合)
		①当てはまる	②どちらかといえば、当てはまる	③どちらかといえば、当てはまらない	④当てはまらない	無回答	
小	(1) 自分には、良いところがあると思う	44.2%	42.2%	8.6%	3.7%	1.3%	4972 (100%)
中	(1) 自分には、良いところがあると思う	43.9%	40.9%	9.6%	3.2%	2.4%	4651 (100%)

グリット

これから、表示される内容が、ほかの人たちとくらべて、あなた自身にどれくらいあてはまるかお尋ねします。
あてはまる番号を答えてください。
この質問に、正しい答えや間違っている答えはありません。自分があてはまると思うものを正直におしえてください。

校種	内容	選択肢					人数 (割合)	
		①とてもよく当てはまる	②よく当てはまる	③少し当てはまる	④あまり当てはまらない	⑤まったく当てはまらない		
小	(1) 新しい考えや計画を思いつくと、前のことからは気がそれてしまうことがあります	12.5%	24.2%	41.6%	17.8%	3.7%	0.2%	3114 (62.6%)
	(2) わたしは、がっかりしたあと、ほかの人よりも立直るのがはやいです	14.6%	18.4%	30.2%	28.1%	8.5%	0.1%	3148 (63.3%)
	(3) 少しの間、ある考えや計画のことで頭がいっぱいになっても、しばらくするとあきてしまいます	13.2%	20.2%	32.8%	26.3%	7.4%	0.1%	3116 (62.7%)
	(4) がんばりやさんです	15.5%	27.4%	36.5%	15.8%	4.8%	0.1%	3073 (61.8%)
	(5) いったん目標を決めてから、そのあと別の目標に変えることがよくあります	10.3%	20.7%	37.8%	25.6%	5.4%	0.1%	3109 (62.5%)
	(6) 終わるまでに何か月もかかるようなことに集中しつづけることができません	12.6%	17.9%	32.5%	28.8%	8.2%	0.0%	3068 (61.7%)
	(7) 始めたことはなんでも最後まで終わらせません	15.0%	28.1%	36.8%	18.3%	1.7%	0.1%	3109 (62.5%)
	(8) まじめにコツコツとやるタイプです	9.1%	19.9%	37.6%	25.6%	7.7%	0.1%	3123 (62.8%)
中	(1) 新しい考えや計画を思いつくと、前のことからは気がそれてしまうことがあります	17.8%	29.4%	35.8%	14.5%	2.2%	0.3%	2953 (63.5%)
	(2) わたしは、がっかりしたあと、ほかの人よりも立直るのがはやいです	16.2%	18.3%	25.5%	29.1%	10.6%	0.3%	2908 (62.5%)
	(3) 少しの間、ある考えや計画のことで頭がいっぱいになっても、しばらくするとあきてしまいます	18.7%	24.2%	30.5%	21.6%	4.7%	0.3%	2932 (63.0%)
	(4) がんばりやさんです	13.5%	22.5%	36.3%	21.6%	5.8%	0.2%	2908 (62.5%)
	(5) いったん目標を決めてから、そのあと別の目標に変えることがよくあります	13.0%	25.9%	33.9%	22.5%	4.2%	0.4%	2906 (62.5%)
	(6) 終わるまでに何か月もかかるようなことに集中しつづけることができません	18.8%	23.7%	30.4%	22.0%	4.9%	0.3%	2922 (62.8%)
	(7) 始めたことはなんでも最後まで終わらせません	14.4%	26.3%	36.9%	19.8%	2.3%	0.2%	2857 (61.4%)
	(8) まじめにコツコツとやるタイプです	7.9%	16.5%	30.5%	33.1%	11.8%	0.2%	2869 (61.7%)

本の冊数、習い事、生まれ

最後に、あなたやあなたの家族のことについてお尋ねします。
 あてはまる番号を答えてください。
 この質問に、正しい答えや間違っている答えはありません。
 自分があてはまると思うものを正直におしえてください。

校種	内容	選択肢						人数 (割合)	
		①0~10冊	②11~25冊	③26~100冊	④101~200冊	⑤201~500冊	⑥501冊以上		
小	(1) あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか (雑誌、新聞、教科書は除きます)。	12.5%	18.3%	33.0%	18.6%	11.8%	5.6%	0.1%	4972 (100%)
中	(1) あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか (雑誌、新聞、教科書は除きます)。	12.9%	17.4%	33.3%	17.3%	12.2%	6.6%	0.3%	4651 (100%)

校種	内容	選択肢				人数 (割合)	
		①週1回行っている	②週2~3回行っている	③週4回以上行っている	④行っていない		
小	(2) あなたは、習い事や学校外のクラブに通っていますか。行っている場合、週何回行っていますか。	18.0%	31.2%	29.1%	21.6%	0.1%	4972 (100%)
中	(2) あなたは、習い事や学校外のクラブに通っていますか。行っている場合、週何回行っていますか。	13.3%	33.1%	16.6%	36.8%	0.2%	4651 (100%)

校種	内容	選択肢				人数 (割合)
		①日本	②外国	③わからない	無回答	
小	(3) あなた	98.8%	0.9%	0.2%	0.1%	4972 (100%)
	(4) 父親	95.6%	1.7%	2.2%	0.4%	4972 (100%)
	(5) 母親	96.2%	2.4%	0.6%	0.8%	4972 (100%)
中	(3) あなた	97.1%	1.2%	1.4%	0.3%	4651 (100%)
	(4) 父親	94.8%	1.6%	2.9%	0.8%	4651 (100%)
	(5) 母親	95.2%	2.5%	1.5%	0.8%	4651 (100%)

家庭内の所有物

次に、あなたの家にあるものについてお尋ねします。表示されるものが家にあるかどうか教えてください。

この質問に、正しい答えや間違っている答えはありません。自分があてはまると思うものを正直におしえてください。

校種	内容	選択肢			人数（割合）
		①家にある	②家がない	無回答	
小	(1) 自分用のコンピュータ又はタブレット端末	73.0%	26.9%	0.1%	3509 (70.6%)
	(2) 自分の部屋	71.4%	28.5%	0.1%	3492 (70.2%)
	(3) 自分用の勉強机	78.3%	21.7%	0.0%	3468 (69.8%)
	(4) 家族で共有しているコンピュータ又はタブレット端末	72.5%	27.4%	0.1%	3496 (70.3%)
	(5) インターネット回線	98.1%	1.8%	0.1%	3530 (71.0%)
	(6) 楽器（例：ギター、ピアノ、ヴァイオリン）	63.0%	37.0%	0.0%	3488 (70.2%)
	(7) 定期購読している新聞（電子新聞も含みます。）	36.1%	63.7%	0.1%	3460 (69.6%)
	(8) 食洗機(自動食器洗い機)	58.6%	41.4%	0.1%	3436 (69.1%)
	(9) 文学作品（例：シェークスピア、夏目漱石）	28.1%	71.7%	0.2%	3419 (68.8%)
	(10) 芸術品（例：絵画、彫刻、陶磁器）	39.4%	60.4%	0.1%	3506 (70.5%)
中	(1) 自分用のコンピュータ又はタブレット端末	76.8%	23.0%	0.2%	3280 (70.5%)
	(2) 自分の部屋	86.2%	13.6%	0.2%	3234 (69.5%)
	(3) 自分用の勉強机	91.7%	8.2%	0.2%	3285 (70.6%)
	(4) 家族で共有しているコンピュータ又はタブレット端末	63.9%	36.0%	0.2%	3226 (69.4%)
	(5) インターネット回線	98.7%	1.1%	0.2%	3224 (69.3%)
	(6) 楽器（例：ギター、ピアノ、ヴァイオリン）	64.4%	35.4%	0.2%	3226 (69.4%)
	(7) 定期購読している新聞（電子新聞も含みます。）	36.5%	63.3%	0.2%	3286 (70.7%)
	(8) 食洗機(自動食器洗い機)	57.1%	42.6%	0.2%	3290 (70.7%)
	(9) 文学作品（例：シェークスピア、夏目漱石）	37.8%	61.8%	0.4%	3240 (69.7%)
	(10) 芸術品（例：絵画、彫刻、陶磁器）	38.4%	61.4%	0.2%	3266 (70.2%)

体験

次に、去年1年間にあなたが体験したことについてお尋ねします。
 表示されることを去年1年間にしたことがあるかどうか教えてください。
 この質問に、正しい答えや間違っている答えはありません。
 自分があてはまると思うものを正直におしえてください。

校種	内容	選択肢					無回答	人数(割合)
		①月に1回以上	②2～3か月に1回	③半年に1回	④1年に1回	⑤連れていってもらったことはない		
小	(1) 図書館に行った	14.1%	18.6%	22.7%	27.2%	17.2%	0.1%	3557 (71.5%)
	(2) 博物館や美術館に行った	1.8%	6.4%	17.3%	41.5%	32.9%	0.2%	3511 (70.6%)
	(3) ミュージカルやクラシックコンサートに行った	1.1%	3.0%	8.4%	26.9%	60.5%	0.2%	3555 (71.5%)
	(4) 旅行に行った	4.8%	16.5%	32.2%	35.8%	10.5%	0.1%	3559 (71.6%)
	(5) ボランティア活動や地域の行事などの社会体験に参加した	3.5%	13.0%	21.5%	30.5%	31.3%	0.1%	3579 (72.0%)
	(6) キャンプ、川遊びなどの自然体験をした	6.2%	13.7%	22.2%	35.1%	22.7%	0.1%	3549 (71.4%)
	(7) スポーツ観戦やスポーツ施設などに行った	17.5%	12.5%	14.1%	23.5%	32.5%	0.1%	3550 (71.4%)
中	(1) 図書館に行った	11.6%	15.8%	18.9%	31.1%	22.2%	0.3%	3324 (71.5%)
	(2) 博物館や美術館に行った	1.1%	2.4%	9.7%	41.8%	44.6%	0.3%	3298 (70.9%)
	(3) ミュージカルやクラシックコンサートに行った	1.3%	2.9%	7.6%	25.4%	62.2%	0.5%	3282 (70.6%)
	(4) 旅行に行った	2.6%	12.2%	29.4%	43.0%	12.5%	0.3%	3293 (70.8%)
	(5) ボランティア活動や地域の行事などの社会体験に参加した	2.5%	9.3%	21.8%	34.8%	31.1%	0.5%	3320 (71.4%)
	(6) キャンプ、川遊びなどの自然体験をした	4.7%	9.4%	17.8%	37.0%	30.7%	0.3%	3379 (72.7%)
	(7) スポーツ観戦やスポーツ施設などに行った	15.2%	12.7%	15.6%	22.7%	33.4%	0.4%	3359 (72.2%)

学習習慣/学習環境

次に、あなたの過ごし方についてお尋ねします。
 あてはまる番号を答えてください。
 この質問に、正しい答えや間違っている答えはありません。
 自分があてはまると思うものを正直におしえてください。

校種	内容	選択肢							無回答	人数 (割合)
		① 3 時間以上	② 2 時間以上, 3 時間より少ない	③ 1 時間以上, 2 時間より少ない	④ 3 0 分以上, 1 時間より少ない	⑤ 3 0 分より少ない	⑥ 全くない			
小	(1) 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含まれます)。	9.5%	11.1%	30.9%	27.3%	14.9%	6.2%	0.1%	4972 (100%)	
中	(1) 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含まれます)。	18.3%	27.6%	29.4%	12.9%	7.1%	4.3%	0.4%	4651 (100%)	

校種	内容	選択肢						無回答	人数 (割合)
		① 2 時間以上	② 1 時間以上, 2 時間より少ない	③ 3 0 分以上, 1 時間より少ない	④ 1 0 分以上, 3 0 分より少ない	⑤ 1 0 分より少ない	⑥ 全くない		
小	(2) 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(電子書籍の読書も含まれます。教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます)。	5.4%	7.9%	17.0%	22.9%	19.0%	27.6%	0.1%	4972 (100%)
中	(2) 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(電子書籍の読書も含まれます。教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます)。	4.4%	7.7%	13.9%	21.4%	17.7%	34.5%	0.5%	4651 (100%)

校種	内容	選択肢						無回答	人数 (割合)
		① 4 時間以上	② 3 時間以上, 4 時間より少ない	③ 2 時間以上, 3 時間より少ない	④ 1 時間以上, 2 時間より少ない	⑤ 1 時間より少ない	⑥ 全くない		
小	(3) 普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含まれます。)をしますか。	20.7%	13.4%	20.2%	24.5%	14.7%	6.4%	0.1%	4972 (100%)
中	(3) 普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含まれます。)をしますか。	18.3%	13.6%	20.2%	20.1%	16.1%	11.4%	0.3%	4651 (100%)

校種	内容	選択肢							無回答	人数 (割合)
		① 4 時間以上	② 3 時間以上, 4 時間より少ない	③ 2 時間以上, 3 時間より少ない	④ 1 時間以上, 2 時間より少ない	⑤ 3 0 分以上, 1 時間より少ない	⑥ 3 0 分より少ない	⑦ 携帯電話やスマートフォンを持っていない		
小	(4) 普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などしますか(携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除きます)。	18.0%	11.3%	17.5%	20.0%	11.0%	8.8%	13.4%	0.1%	4972 (100%)
中	(4) 普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などしますか(携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除きます)。	21.5%	17.3%	25.6%	21.4%	7.9%	3.7%	2.2%	0.4%	4651 (100%)

資料2. 児童生徒質問調査回答画面(全項目)

R6_児童生徒質問調査_総ルビ版-はじめに | 問題: 1/41

問題一覧

はじめに

質問 1

質問 2

質問 3

10 11 12 13

はじめに

これから、全国学力・学習状況調査児童生徒質問調査を始めます。

<調査の内容・方法>

- この調査は、皆さんの学校や家で勉強や生活の様子について尋ねるものです。
- それぞれの質問について、当てはまる番号やあなたの考えに近い番号を選んでください。
- 質問を注意深く読み、できるだけ正確に答えてください。
- 回答内容は、誰が回答したのかわからないようにして回収します。また、あなたが回答した内容は学校の先生にも伝えません。自分があてはまると思うものを正確にお答えください。

右下の ボタンを押して次のページに進んでください。

©2013-2014-2022,02,175- Open Assessment Technologies S.A. All rights reserved.

R6_児童生徒質問調査_総ルビ版-質問1 | 問題: 2/41

問題一覧

はじめに

質問 1

質問 2

質問 3

10 11 12 13

次のことは、あなたにどれくらい当てはまりますか。最も近い番号を1つ選んでください。

自分には、よいところがあると思う

全く当てはまる

全く当てはまらない

どちらかといえば、当てはまる

どちらかといえば、当てはまらない

全く当てはまらない

右下の ボタンを押して次のページに進んでください。

©2013-2014-2022,02,175- Open Assessment Technologies S.A. All rights reserved.

R6_児童生徒質問調査_総ルビ版-質問2リード文 | 問題: 3/41

問題一覧

はじめに

質問 1

質問 2

質問 3

10 11 12 13

これから、表示される内容が、ほかの人たちとくらべて、あなた自身にどれくらいあてはまるかお答えください。

あてはまる番号を選んでください。

この質問に、正しい答えや間違っている答えはありません。

自分があてはまると思うものを正確に答えてください。

右下の ボタンを押して次のページに進んでください。

©2013-2014-2022,02,175- Open Assessment Technologies S.A. All rights reserved.

R6_児童生徒質問調査_総ルビ版_質問2 問題: 4/41

問題一覧

はじめに

質問 1

質問 2 リード文

質問 2

質問 3 リード文

質問 3

10 11 12 13

新しい考えや計画を思いつくと、驚くことからは戻がされてしまうことがあります

とてもよく当てはまる
 よく当てはまる
 多少当てはまる
 あまり当てはまらない
 当てはまらない

右下の ボタンを押して次のページに進んでください

©2013-2024 2022.02.175 - Open Assessment Technologies S.A. All rights reserved.

R6_児童生徒質問調査_総ルビ版_質問2 問題: 5/41

問題一覧

はじめに

質問 1

質問 2 リード文

質問 2

質問 3 リード文

質問 3

10 11 12 13

わたしは、がっかりしたあと、ほかの人よりも立ち直るのがはかいです

とてもよく当てはまる
 よく当てはまる
 多少当てはまる
 あまり当てはまらない
 当てはまらない

右下の ボタンを押して次のページに進んでください

©2013-2024 2022.02.175 - Open Assessment Technologies S.A. All rights reserved.

R6_児童生徒質問調査_総ルビ版_質問2 問題: 6/41

問題一覧

はじめに

質問 1

質問 2 リード文

質問 2

質問 3 リード文

質問 3

10 11 12 13

少しの間、ある考えや計画のことで頭がいっぱいになっても、しばらくするとあきってしまいます

とてもよく当てはまる
 よく当てはまる
 多少当てはまる
 あまり当てはまらない
 当てはまらない

右下の ボタンを押して次のページに進んでください

©2013-2024 2022.02.175 - Open Assessment Technologies S.A. All rights reserved.

R6_児童生徒質問調査_総仕上げ版_質問2 問題: 7/41

問題一覧

はじめに

問題 1

問題 2 リード文

問題 2

問題 3 リード文

問題 3

がんばりやさんです

- とてもよくできてはまる
- よくできてはまる
- 少なうできてはまる
- まあまあできてはまらない
- まあたかくできてはまらない

右下の ボタンを押して次のページに進んでください。

©2013-2024 2022.02.175 - Open Assessment Technologies S.A. All rights reserved.

R6_児童生徒質問調査_総仕上げ版_質問2 問題: 8/41

問題一覧

はじめに

問題 1

問題 2 リード文

問題 2

問題 3 リード文

問題 3

いったん目標を決めてから、そのあと別の目標に変えることがよくあります

- とてもよくできてはまる
- よくできてはまる
- 少なうできてはまる
- まあまあできてはまらない
- まあたかくできてはまらない

右下の ボタンを押して次のページに進んでください。

©2013-2024 2022.02.175 - Open Assessment Technologies S.A. All rights reserved.

R6_児童生徒質問調査_総仕上げ版_質問2 問題: 9/41

問題一覧

はじめに

問題 1

問題 2 リード文

問題 2

問題 3 リード文

問題 3

終わるまでに月をわけるようにすることに慣れておきましょう

- とてもよくできてはまる
- よくできてはまる
- 少なうできてはまる
- まあまあできてはまらない
- まあたかくできてはまらない

右下の ボタンを押して次のページに進んでください。

©2013-2024 2022.02.175 - Open Assessment Technologies S.A. All rights reserved.

R6_児童生徒質問調査_総ルビ版_質問2 問題 : 10 / 41

問題一覧

はじめに
 1
 質問1
 2
 3
 4
 5
 6
 7
 8
 9
 質問2
 10
 11
 12
 13
 質問3

読めたことはなんでも最後まで終わらせてください

- ほとんどよくできてはまる
- よくできてはまる
- 多少よくできてはまる
- まあまあできてはまる
- まあまあできてはまる
- ほとんどできてはまる

右下の ボタンを押して次のページに進んでください

©2013 - 2024 - 2023.02.175 - Open Assessment Technologies S.A. All rights reserved.

R6_児童生徒質問調査_総ルビ版_質問2 問題 : 11 / 41

問題一覧

はじめに
 1
 質問1
 2
 3
 4
 5
 6
 7
 8
 9
 質問2
 10
 11
 12
 13
 質問3

まじめにコツコツとやるタイプです

- ほとんどよくできてはまる
- よくできてはまる
- 多少よくできてはまる
- まあまあできてはまる
- まあまあできてはまる
- ほとんどできてはまる

右下の ボタンを押して次のページに進んでください

©2013 - 2024 - 2023.02.175 - Open Assessment Technologies S.A. All rights reserved.

R6_児童生徒質問調査_総ルビ版_質問3 リード文 問題 : 12 / 41

問題一覧

はじめに
 1
 質問1
 2
 3
 4
 5
 6
 7
 8
 9
 質問2
 10
 11
 12
 13
 質問3

次に、あなたの家にあるものについてお尋ねします。
 表示されるものが家にありますか教えてください。
 この質問に、正しい答えや間違っている答えはありません。
 自分があてはまると思うものを正しく教えてください。

右下の ボタンを押して次のページに進んでください

©2013 - 2024 - 2023.02.175 - Open Assessment Technologies S.A. All rights reserved.

R6_児童生徒質問調査_総ルビ版_質問3 問題 : 13 / 41

問題一覧

はじめに

問題 1

問題 2 リード文

問題 2

問題 3 リード文

問題 3

自分のコンピュータ又はタブレット端末

空欄にある

空欄がない

前の **右下の** 次の ボタンを押して次のページに進んでください。

©2013 - 2024 - 2023.02.175 - Open Assessment Technologies S.A. All rights reserved.

R6_児童生徒質問調査_総ルビ版_質問3 問題 : 14 / 41

問題一覧

はじめに

問題 1

問題 2 リード文

問題 2

問題 3 リード文

問題 3

自分の部屋

空欄にある

空欄がない

前の **右下の** 次の ボタンを押して次のページに進んでください。

©2013 - 2024 - 2023.02.175 - Open Assessment Technologies S.A. All rights reserved.

R6_児童生徒質問調査_総ルビ版_質問3 問題 : 15 / 41

問題一覧

はじめに

問題 1

問題 2 リード文

問題 2

問題 3 リード文

問題 3

自分の部屋

空欄にある

空欄がない

前の **右下の** 次の ボタンを押して次のページに進んでください。

©2013 - 2024 - 2023.02.175 - Open Assessment Technologies S.A. All rights reserved.

R6_児童生徒質問調査_総ルビ版_質問3 問題 : 16 / 41

問題一覧

はじめに

質問 1

質問 2 リード文

質問 2

質問 3 リード文

質問 3

10 11 12 13

14 15 16 17

18 19

質問 4 リード文

質問 4

20 21 22 23

24 25 26

質問 5 リード文

質問 5

27 28 29 30

31 32 33 34

35 36 37 38 39 40 41

問題で共有しているコンピュータ又はタブレット端末

どちらもある

どちらもない

石下の  ボタンを押して次のページに進んでください。

©2013 - 2024 - 2022.02.175 - Open Assessment Technologies S.A. All rights reserved.

R6_児童生徒質問調査_総ルビ版_質問3 問題 : 17 / 41

問題一覧

質問 3

質問 4

質問 5

10 11 12 13

14 15 16 17

18 19

質問 4 リード文

質問 4

20 21 22 23

24 25 26

質問 5 リード文

質問 5

27 28 29 30

31 32 33 34

35 36 37 38 39 40 41

インターネット接続

どちらもある

どちらもない

石下の  ボタンを押して次のページに進んでください。

©2013 - 2024 - 2022.02.175 - Open Assessment Technologies S.A. All rights reserved.

R6_児童生徒質問調査_総ルビ版_質問3 問題 : 18 / 41

問題一覧

質問 3

質問 4

質問 5

10 11 12 13

14 15 16 17

18 19

質問 4 リード文

質問 4

20 21 22 23

24 25 26

質問 5 リード文

質問 5

27 28 29 30

31 32 33 34

35 36 37 38 39 40 41

楽器 (例: ギター、ピアノ、ヴァイオリン)

どちらもある

どちらもない

石下の  ボタンを押して次のページに進んでください。

©2013 - 2024 - 2022.02.175 - Open Assessment Technologies S.A. All rights reserved.

R6_児童生徒質問調査_総ルビ版_質問3 問題 : 19 / 41

問題一覧

質問 3

10 11 12 13
14 15 16 17
18 19

質問 4 リード文

f

質問 4

20 21 22 23
24 25 26

質問 5 リード文

f

質問 5

27 28 29 30

不明瞭な質問 (電子新聞を読みます。)

記事がある

記事がない

石下の  ボタンを押して次のページに進んでください。

©2013 - 2024 2023.02.175 - Open Assessment Technologies S.A. All rights reserved.

R6_児童生徒質問調査_総ルビ版_質問3 問題 : 20 / 41

問題一覧

質問 3

10 11 12 13
14 15 16 17
18 19

質問 4 リード文

f

質問 4

20 21 22 23
24 25 26

質問 5 リード文

f

質問 5

27 28 29 30

写真集 (自動販売機売り場)

記事がある

記事がない

石下の  ボタンを押して次のページに進んでください。

©2013 - 2024 2023.02.175 - Open Assessment Technologies S.A. All rights reserved.

R6_児童生徒質問調査_総ルビ版_質問3 問題 : 21 / 41

問題一覧

質問 3

10 11 12 13
14 15 16 17
18 19

質問 4 リード文

f

質問 4

20 21 22 23
24 25 26

質問 5 リード文

f

質問 5

27 28 29 30

文学作品 (例：シェークスピア、夏目漱石)

記事がある

記事がない

石下の  ボタンを押して次のページに進んでください。

©2013 - 2024 2023.02.175 - Open Assessment Technologies S.A. All rights reserved.

R6_児童生徒質問調査_総ルビ版_質問3 問題 : 22/41

問題一覧

質問3

10 11 12 13
14 15 16 17
18 19

質問4リード文

20 21 22 23
24 25 26

質問5リード文

27 28 29 30

言語 (英: 英語, 邦文, 陶磁器)

言葉にある

言葉にない

右下の → ボタンを押して次のページに進んでください。

©2013 - 2024 - 2022.02.175 - Open Assessment Technologies S.A. All rights reserved.

R6_児童生徒質問調査_総ルビ版_質問4リード文 問題 : 23/41

問題一覧

質問3

10 11 12 13
14 15 16 17
18 19

質問4リード文

20 21 22 23
24 25 26

質問5リード文

27 28 29 30

次に、去年1年間にあなたが体験したことについてお尋ねします。
 選択されることを昨年1年間にしたことがあるかどうか教えてください。
 この判断に、正しい答えや間違っている答えはありません。
 自分があてはまると思うものを正箇に教えてください。

右下の → ボタンを押して次のページに進んでください。

©2013 - 2024 - 2022.02.175 - Open Assessment Technologies S.A. All rights reserved.

R6_児童生徒質問調査_総ルビ版_質問4 問題 : 24/41

問題一覧

質問3

10 11 12 13
14 15 16 17
18 19

質問4リード文

20 21 22 23
24 25 26

質問5リード文

27 28 29 30

回答に行った

1回以上

2〜3か月1回

半年に1回

年に1回

全く覚えていない

右下の → ボタンを押して次のページに進んでください。

©2013 - 2024 - 2022.02.175 - Open Assessment Technologies S.A. All rights reserved.

R6_児童生徒質問調査_総ルビ版_質問4 問題 : 25/41

問題一覧

質問3

10 11 12 13
14 15 16 17
18 19

質問4リード文

f

質問4

20 21 22 23
24 25 26

質問5リード文

f

質問5

27 28 29 30

選択問題や選択問題を行った

1ヵ月に1回以上
 2ヵ月～3ヵ月に1回
 3ヵ半年に1回
 1年以上
 全く覚えていない

以下のボタンを押して別のページに進んでください

← →

©2013-2024 2022.02.175 - Open Assessment Technologies S.A. All rights reserved.

R6_児童生徒質問調査_総ルビ版_質問4 問題 : 26/41

問題一覧

質問3

10 11 12 13
14 15 16 17
18 19

質問4リード文

f

質問4

20 21 22 23
24 25 26

質問5リード文

f

質問5

27 28 29 30

ミュージカルやクラシックコンサートを行った

1ヵ月に1回以上
 2ヵ月～3ヵ月に1回
 3ヵ半年に1回
 1年以上
 全く覚えていない

以下のボタンを押して別のページに進んでください

← →

©2013-2024 2022.02.175 - Open Assessment Technologies S.A. All rights reserved.

R6_児童生徒質問調査_総ルビ版_質問4 問題 : 27/41

問題一覧

質問3

10 11 12 13
14 15 16 17
18 19

質問4リード文

f

質問4

20 21 22 23
24 25 26

質問5リード文

f

質問5

27 28 29 30

旅行を行った

1ヵ月に1回以上
 2ヵ月～3ヵ月に1回
 3ヵ半年に1回
 1年以上
 全く覚えていない

以下のボタンを押して別のページに進んでください

← →

©2013-2024 2022.02.175 - Open Assessment Technologies S.A. All rights reserved.

R6_児童生徒質問調査_総ルビ版_質問4 問題 : 28 / 41

問題一覧

質問3

10 11 12 13
14 15 16 17
18 19

質問4リード文

f

質問4

20 21 22 23
24 25 26

質問5リード文

f

質問5

27 28 29 30

ボランテニア活動や地域の行事などの社会体験に参加した

- 1ヶ月に1回以上
- 2~3ヶ月に1回
- 半年に1回
- 1年に1回
- 全くしていない

以下のボタンを押して次のページに進んでください

← →

©2013-2024 2023.02.175 - Open Assessment Technologies S.A. All rights reserved.

R6_児童生徒質問調査_総ルビ版_質問4 問題 : 29 / 41

問題一覧

質問3

10 11 12 13
14 15 16 17
18 19

質問4リード文

f

質問4

20 21 22 23
24 25 26

質問5リード文

f

質問5

27 28 29 30

キャンプ、川遊びなどの自然体験をした

- 1ヶ月に1回以上
- 2~3ヶ月に1回
- 半年に1回
- 1年に1回
- 全くしていない

以下のボタンを押して次のページに進んでください

← →

©2013-2024 2023.02.175 - Open Assessment Technologies S.A. All rights reserved.

R6_児童生徒質問調査_総ルビ版_質問4 問題 : 30 / 41

問題一覧

質問3

10 11 12 13
14 15 16 17
18 19

質問4リード文

f

質問4

20 21 22 23
24 25 26

質問5リード文

f

質問5

27 28 29 30

スポーツ観戦やスポーツ施設などに行った

- 1ヶ月に1回以上
- 2~3ヶ月に1回
- 半年に1回
- 1年に1回
- 全くしていない

以下のボタンを押して次のページに進んでください

← →

©2013-2024 2023.02.175 - Open Assessment Technologies S.A. All rights reserved.

R6_児童生徒質問調査_総ルビ版_質問5リード文 問題 : 31 / 41

問題一覧

質問4
20 21 22 23
24 25 26

質問5リード文
f

質問5
27 28 29 30

質問6リード文
f

質問6
31 32 33

注意
f

次に、あなたの過ごし方についてお尋ねします。
 あてはまる種類を教えてください。
 この質問に、正しい答えや間違っている答えはありません。
 自分があてはまると思うものを正箇に教えてください。

右下の  ボタンを押して次のページに進んでください。

← →

©2013-2024 2023.02.175 - Open Assessment Technologies S.A. All rights reserved.

R6_児童生徒質問調査_総ルビ版_質問5 問題 : 32 / 41

問題一覧

24 25 26

質問5リード文
f

質問5
27 28 29 30

質問6リード文
f

質問6
31 32 33

注意
f

終了
f

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますが（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを利用して学ぶ時間も含まれます）。

- ① 3時間以上
- ② 2時間以上、3時間より少ない
- ③ 1時間以上、2時間より少ない
- ④ 30分以上、1時間より少ない
- ⑤ 10分以上、30分より少ない
- ⑥ 全く勉強しない

右下の  ボタンを押して次のページに進んでください。

← →

©2013-2024 2023.02.175 - Open Assessment Technologies S.A. All rights reserved.

R6_児童生徒質問調査_総ルビ版_質問5 問題 : 33 / 41

問題一覧

24 25 26

質問5リード文
f

質問5
27 28 29 30

質問6リード文
f

質問6
31 32 33

注意
f

終了
f

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますが（電子書籍の読書も含まれます。教科書や参考書、雑誌や雑誌は除きます）。

- ① 2時間以上
- ② 1時間以上、2時間より少ない
- ③ 30分以上、1時間より少ない
- ④ 10分以上、30分より少ない
- ⑤ 10分より少ない
- ⑥ 全く勉強しない

右下の  ボタンを押して次のページに進んでください。

← →

©2013-2024 2023.02.175 - Open Assessment Technologies S.A. All rights reserved.

R6_児童生徒質問調査_総ルビ版_質問5 問題 : 34/41

問題一覧 (24) (25) (26)

質問5 リード文

質問5 (27) (28) (29) (30)

質問6 リード文

質問6 (31) (32) (33)

注意

終了

右下の  ボタンを押して次のページに進んでください。

音程 (内曜日から迄曜日) : 1日当たりどれくらいの間、テレビゲーム (コンピュータゲーム、携帯型のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含みます。) をしますか。

- ① 4時間以上
- ② 3時間以上、4時間より少ない
- ③ 2時間以上、3時間より少ない
- ④ 1時間以上、2時間より少ない
- ⑤ 1時間より少ない
- ⑥ 全くしない

©2013-2014 2022.02.175 - Open Assessment Technologies S.A. All rights reserved.

R6_児童生徒質問調査_総ルビ版_質問5 問題 : 35/41

問題一覧 (24) (25) (26)

質問5 リード文

質問5 (27) (28) (29) (30)

質問6 リード文

質問6 (31) (32) (33)

注意

終了

右下の  ボタンを押して次のページに進んでください。

音程 (内曜日から迄曜日) : 1日当たりどれくらいの間、携帯電話やスマートフォンで SNS や動画視聴などをしますか (携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除きます)。

- ① 4時間以上
- ② 3時間以上、4時間より少ない
- ③ 2時間以上、3時間より少ない
- ④ 1時間以上、2時間より少ない
- ⑤ 30分以上、1時間より少ない
- ⑥ 30分より少ない
- ⑦ 携帯電話やスマートフォンを持っていない

©2013-2014 2022.02.175 - Open Assessment Technologies S.A. All rights reserved.

R6_児童生徒質問調査_総ルビ版_質問6 リード文 問題 : 36/41

問題一覧 (24) (25) (26)

質問5 リード文

質問5 (27) (28) (29) (30)

質問6 リード文

質問6 (31) (32) (33)

注意

終了

右下の  ボタンを押して次のページに進んでください。

最後に、あなたやあなたの家族のことについてお尋ねします。
 あてはまる番号を教えてください。
 この質問に、正しい答えや間違っている答えはありません。
 自分があてはまると思うものを正しく選んで教えてください。

©2013-2014 2022.02.175 - Open Assessment Technologies S.A. All rights reserved.

RG_児童生徒質問調査_総ルビ版_質問6 問題 : 27 / 41

問題一覧

24 25 26

質問5 リード文

質問5

27 28 29 30

質問6 リード文

質問6

31 32 33

注意

終了

あなたの業には、およそどれくらいの本がありますか（雑誌、新聞、資料誌は除きます）。

- 0～10冊
- 11～25冊
- 26～100冊
- 101～200冊
- 201～500冊
- 501冊以上

右下の → ボタンを押して次のページに進んでください。

©2013-2024 2023.02.175 - Open Assessment Technologies S.A. All rights reserved.

RG_児童生徒質問調査_総ルビ版_質問6 問題 : 28 / 41

問題一覧

24 25 26

質問5 リード文

質問5

27 28 29 30

質問6 リード文

質問6

31 32 33

注意

終了

あなたは、新しい章や学校のクラブに属していますが、行っている場合、進捗はどのようになっていますか。

- 全章1冊目まで進んでいる
- 全章2～3冊目まで進んでいる
- 全章4冊目以上進んでいる
- 進んでいない

右下の → ボタンを押して次のページに進んでください。

©2013-2024 2023.02.175 - Open Assessment Technologies S.A. All rights reserved.

RG_児童生徒質問調査_総ルビ版_質問6 問題 : 29 / 41

問題一覧

24 25 26

質問5 リード文

質問5

27 28 29 30

質問6 リード文

質問6

31 32 33

注意

終了

ご質問（もしくは保護者の方）とあなたが生まれた国はどこですか。それぞれについて、あてはまるものを1つ選んでください。

あなた

- 日本
- 外国
- 分からない

▼

父親

- 日本
- 外国
- 分からない

▼

母親

- 日本
- 外国
- 分からない

右下の → ボタンを押して次のページに進んでください。

©2013-2024 2023.02.175 - Open Assessment Technologies S.A. All rights reserved.

R6_児童生徒質問調査_総ルビ版_注意 問題 : 40 / 41

問題一覧

24 25 26

質問 5 リード文

質問 5

27 28 29 30

質問 6 リード文

質問 6

31 32 33

注意

終了

→ をクリックすると、
次のページに進み、
自動的に回答が提出されます。

提出後は、前の画面には戻れなくなります。
回答内容を確認したい場合は、
下の手順で前のページに戻りましょう。

例

●	○	●	●	●
●	○	●	●	○

左側の問題一覧の○に囲まれた数字を押すと、その番号のページにジャンプすることができます。

○に囲まれた数字のうち、黒くなっていない数字（左図の例では②）はページ内の全ての質問が未回答となっているページです。

← →

© 2013 - 2024 - 0023,001,075 - Open Assessment Technologies S.A. All rights reserved.

R6_児童生徒質問調査_総ルビ版_終了 Name: 0020022 問題 : 41 / 41

以上で問題は終了です。
データを送信しています。

5秒後に、画面が自動で切り替わります。

5秒経っても画面が切り替わらない場合は、
右下の **終了** を押してください。

終了

© 2013 - 2024 - 0023,001,075 - Open Assessment Technologies S.A. All rights reserved.

資料3. 実証校アンケート調査集計結果

内容	選択肢		人数
	1) 児童生徒一人一人の学習指導に活用しており、学校の児童生徒全員分の回答状況の返却が必要である。	2) 国や自治体全体の傾向が分かればよく、児童生徒全員の回答状況が返却されなくても差し支えない。	
①基本的な生活習慣等 (例：朝食を毎日食べている)	61.3%	38.7%	194
②挑戦心、自己有用感、幸福感等 (例：自分には、よいところがあると思う)	70.1%	29.9%	194
③学習習慣、学習環境等 (例：あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか)	59.3%	40.7%	194
④地域や社会に関わる活動の状況等 (例：地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う)	51.5%	48.5%	194
⑤ICTを活用した学習状況 (例：5年生（中学2年生）までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか)	46.4%	53.6%	194
⑥主体的・対話的で深い学び (例：授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた)	67.0%	33.0%	194
⑦総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳 (例：総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる)	57.2%	42.8%	194
⑧学習に対する興味・関心 (例：国語（算数ほか）の勉強は好きだ)	71.6%	28.4%	194
⑨授業の理解度 (例：国語（算数ほか）の授業の内容はよく分かる)	72.7%	27.3%	194
⑩各教科の学習状況 (例：算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える。理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている)	69.1%	30.9%	194
⑪調査問題の解答状況 (例：解答時間は十分でしたか) することができます。	43.8%	56.2%	194